

| | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------|
| Title | 東京歯科大学研究年報 : 平成16年度 |
| Journal | 東京歯科大学研究年報, (): - |
| URL | http://hdl.handle.net/10130/389 |
| Right | |

1. 保 存 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|------------------------------|
| 教 授 | 榎石 武美 | 炭酸ガスレーザー(Panalas 10)による硬組織治療 |
| 講 師 | 近藤 祥弘 | 歯内療法処置に応用される材品に関する研究 |
| | 野呂 明夫 | 口腔リハビリ器具による表情筋機能療法 |
| | 森山 貴史 | 口臭 |
| 助 手 | 渡部 光弘 | 歯髄 材品の接触界面に関する臨床的検討 |
| | 鈴木 道子 | 歯周組織発生における上皮 間葉相互作用 |
| 臨床研修医 | 大守真由子 | |
| | 松本 信哉 | |
| | 水戸部明子 | |
| | 井田 篤 | |

2. 成果の概要

1) 口臭

現在, 既存の口臭治療法には, 問題点が多い. 我々は, その問題点を解析し, 新しい口臭治療法を開発するために, 口臭の病態および既存の口臭治療に対する反応について臨床的評価および分析を行った. 対象は, 水道橋病院に口臭を主訴に来院した患者 128 名 (男性 47 名・女性 81 名, 平均年齢 44.8 ± 13.8). 口臭分析器として Halimeter RH-17 を使用した 全患者数で, 口臭を自覚している者は 79 名/128 名 (61.7%) であったにもかかわらず, 測定器にて社会的許容範囲 (300ppb) 以下で生理的口臭と診断された者は, 99 名/128 名 (77.3%) で, ほとんどの患者が比較的軽度の口臭しか有さないと考えられた. 生理的口臭と診断された者のうち, 舌苔が原因と思われたものは 79 名 (87.8%) で, 軽度の口臭と診断された患者のほとんどが舌清掃により口臭が改善するものと考えられた.

2) 歯周組織発生における上皮 間葉相互作用

The purpose of this study is to investigate the characteristic of Malassez's epithelial rests (MER) in the cementum of porcines using immunohistochemical and electron microscopically.

MER in the periodontal ligament existed closely to the surface of tooth root, but MER in the cementum existed at the apical portion. These cells in the cementum communicate with cementocyte and with the cementum surface via cell processes. Immunoreactives for CK5/8 were observed all MER. With Transmission electron microscopy, MER in the periodontal ligament were surrounded by basement membrane, and had nucleus with condensed heterocromatin. While MER in the cementum were weakly and intermittently surrounded by basement membrane. These organelles such as mitochondrion and the rough ER were observed at the superstratum of the cementum, but they were fewest and disintegrated at the substratum of the cementum.

Our results suggested that disintegrated Hertwig's root sheath have left in the periodontal ligament and embedded in the cementum at the apical portion. And MER in the cementum might occurred

the cell death by increasing cementum.

3. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|------------|----------|-------------|-----|
| 森山 貴史 | 2004.11.17 | 歯周病と全身疾患 | 東京都調布市歯科医師会 | 東京 |
| 渡部 光弘 | 2004.3.8 | 意図的歯牙再植法 | 東京都中野区歯科医師会 | 東京 |

研修医 OSCE

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|-------|------------|---------------|--------|-----|
| 槇石 武美 | 2004. 5.15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 運営委員 | 東京 |
| 森山 貴史 | 2004. 5.15 | 第7回水道橋病院 OSCE | ST 責任者 | 東京 |
| 鈴木 道子 | 2004. 5.15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 回収・集計係 | 東京 |
| 槇石 武美 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 運営委員 | 東京 |
| 渡部 光弘 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | ST 責任者 | 東京 |
| 鈴木 道子 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 回収・集計係 | 東京 |

その他

1. 森山貴史, 山田 了⁽¹⁾ : 歯周疾患および即時埋入がインプラント生存率に及ぼす影響の長期的後向き研究, Quintessence **11**(6), 782 ~ 788, 2004. (1)保存 II
2. 森山貴史, 山田 了⁽¹⁾ : 残存歯根片由来の退行性インプラント周囲感染症の対処と予防: 2 例の症例報告, The International Journal of Periodontics and Restorative Dentistry (日本語版) **12**(6), 18 ~ 28, 2004. (1)保存 II
3. 野呂明夫 : 脳梗塞患者・顔面神経麻痺患者へのリハビリテーション, トウギャザー **128**(1), 1 ~ 6, 2005.
4. 野呂明夫 : 口呼吸とイビキは世界共通の社会問題, トウギャザー **131**(5), 2 ~ 3, 2005.
5. 野呂明夫 : 口唇と舌の運動で舌骨沈下を防止する, トウギャザー **132**(6), 2 ~ 3, 2005.
6. 野呂明夫 : パタカラで 150%アップの口腔筋力を作る, トウギャザー **124**(8), 2 ~ 4, 2005.

学会抄録

1. 野呂明夫, 細川壮平⁽¹⁾, 高橋潤一⁽²⁾, 秋廣良昭⁽¹⁾, 槇石武美, 平井義人⁽³⁾ : 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法 (第 1 報)口呼吸患者への応用による口腔機能の変化, 日歯保存誌 **47**(春季特別), 103, 2004. (第 120 回日本歯科保存学春季大会, 東京) (1)水病・総合歯科,(2)保存 II,(3)保存 III
2. 細川壮平⁽¹⁾, 野呂明夫⁽²⁾, 高橋潤一⁽¹⁾, 秋廣良昭⁽¹⁾, 槇石武美⁽²⁾, 平井義人⁽²⁾ : 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法 第 2 報 リハビリ・イビキ・たるみ顔患者への応用による口腔諸機能の変化, 日歯保存誌 **47**(春季特別), 104, 2004.(第 120 回日本歯科保存学会春季学会, 東京) (1)水病・総合歯科,(2)保存 III
3. 関根秀志⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾, 飯島俊一⁽²⁾, 椎貝達夫⁽²⁾, 武田孝之⁽²⁾, 瀬田修一⁽³⁾, 浅田智宏⁽⁴⁾, 長谷川洋人⁽⁴⁾, 鈴木道子⁽⁵⁾, 野村貴生⁽⁶⁾, 安達 康⁽⁶⁾, 廣瀬理子 : 東京歯科大学水道橋病院におけるインプラント治療の現状, 歯科学報 **104**(5), 507, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)水病・口腔インプラント科,(2)東歯大・水病・インプラント科,(3)水病・口外科,(4)補綴 I,(5)保存 II,(6)水病・補綴科
4. 細川壮平⁽¹⁾, 野呂明夫⁽²⁾, 高橋潤一⁽¹⁾, 秋廣良昭⁽¹⁾, 槇石武美⁽²⁾, 平井義人⁽²⁾ : 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法 第 3 報 麻痺・構音障害を伴い脳梗塞患者へのリハビリテーション, 日歯保存誌 **47** (秋季特別), 189, 2004.(第 121 回日本歯科保存学会春季学会, 東京) (1)水病・総合歯科,(2)保存 III
5. 細川壮平⁽¹⁾, 野呂明夫⁽²⁾, 高橋潤一⁽¹⁾, 秋廣良昭⁽¹⁾, 槇石武美⁽²⁾, 平井義人⁽²⁾ : 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法 第 4 報 , 日歯保存誌 **47**(秋季特別), 190, 2004.(第 120 回日本歯科保存学会春季学会, 東京) (1)水病・総合歯科,(2)保存 III
6. Noro,A.⁽¹⁾, Takahashi,J.⁽²⁾, Hirai,Y.⁽¹⁾ : Myofunction Therapy Using Oral Rehabilitation Apparatus to Mouth Respiration Patients, IADR, 154, 2005.(83rd General Session and Exhibition of the IADR, Baltimore U.S.A) 脳科学研 (1)保存 III,(2)水病・総合歯科

2. 総 合 歯 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|-------------------------|
| 教 授 | 槇石 武美 | 総合診療の進め方の検討 |
| 講 師 | 青木 聡 | 総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討 |
| | 牟田 具城 | 総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討 |
| 助 手 | 益田 賢治 | 総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討 |
| 病院助手 | 細川 壮平 | 歯牙漂白の経過観察 口腔筋機能訓練の研究 |
| | 小貫 瑞穂 | 総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討 |
| | 大迫 美穂 | 総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討 |
| 臨床研修医 | 飯田 聡 | 総合診療実践のための診査・診断・治療計画の検討 |

2. 成果の概要

1) 総合診療の進め方の検討

総合診療を進めるにあたっては、患者中心の診療を行うこと、計画診療を行うこと、診療の流れのパターンを作ることが必要である。そのためには一口腔単位での治療が必要であり、患者固有の硬組織及び軟組織の機能を重視した治療計画が必要となってくる。このように受診者来院時からの個々のステップをひとつひとつ検討し、機能回復を図るべく診療にあたっている。

3. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

| 主催者名 | 年月日 | 主題名 | 学会名 | 主催地 |
|------|------------|-------------|------------------------|-----|
| 総合歯科 | 2005. 3.20 | 第6回総合歯科セミナー | 東京歯科大学水道橋校舎 血脇記念ホール | 東京 |

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育ワークショップ等

| 氏名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役割 | 開催地 |
|------|------------|------------------------------|----------------|-----|
| 青木 聡 | 2005. 2.23 | 第 2 回東京歯科大学水道橋病院歯科臨床研修医症例報告会 | 企画, 運営, 進行, 評価 | 東京 |

研修医 OSCE

| 氏名 | 年月日 | 種別 | 役割 | 開催地 |
|-------|------------|-----------------|---------|-----|
| 槇石 武美 | 2004. 5.15 | 第 7 回水道橋病院 OSCE | 運営副委員 | 東京 |
| 青木 聡 | 2004. 5.15 | 第 7 回水道橋病院 OSCE | S T 責任者 | 東京 |
| 益田 賢治 | 2004. 5.15 | 第 7 回水道橋病院 OSCE | レスト・器材係 | 東京 |
| 槇石 武美 | 2005. 3. 5 | 第 8 回水道橋病院 OSCE | 運営副委員 | 東京 |
| 青木 聡 | 2005. 3. 5 | 第 8 回水道橋病院 OSCE | レスト・器材係 | 東京 |
| 牟田 具城 | 2005. 3. 5 | 第 8 回水道橋病院 OSCE | 記録係 | 東京 |
| 益田 賢治 | 2005. 3. 5 | 第 8 回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |

解 説

1. 佐藤貞雄⁽¹⁾, 青木 聡, 高階博文⁽¹⁾, 榊原功二⁽²⁾, 花島美和⁽²⁾ : やさしい咬合生物学 シークエンシャル咬合の理論と実際 12. ブラキシズムに起因した咬合崩壊症例の歯冠修復による咬合再建治療, Quintessence 23(4), 897~904, 2004. 脳科学研 (1)神歯大・歯・成長発達歯科,(2)東京都

単行図書

1. 秋廣良昭, 細川壮平: 共著 : 立ち読みでわかるイビキの本 - 鼻呼吸が健康体をつくる - , 三和書籍, 東京, 2004.

学会抄録

1. 野呂明夫⁽¹⁾, 細川壮平, 高橋潤一⁽²⁾, 秋廣良昭, 槇石武美⁽¹⁾, 平井義人⁽³⁾ : 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法 (第 1 報) 口呼吸患者への応用による口腔機能の変化, 日歯保存誌 47(春季特別号), 103, 2004.(第 120 回日本歯科保存学春季大会, 東京) (1)水病・保存科,(2)保存 II,(3)保存 III
2. 細川壮平, 野呂明夫⁽¹⁾, 高橋潤一⁽²⁾, 秋廣良昭, 槇石武美⁽¹⁾, 平井義人⁽³⁾ : 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法 (第 2 報) リハビリ・イビキ・たるみ顔患者への応用による口腔諸機能の変化, 日歯保存誌 47(春季特別号), 104, 2004.(第 120 回日本歯科保存学会春季学会, 東京) (1)水病・保存科,(2)保存 II,(3)保存 III
3. 細川壮平, 野呂明夫⁽¹⁾, 高橋潤一⁽²⁾, 秋廣良昭, 槇石武美⁽¹⁾, 平井義人⁽³⁾ : 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法 (第 4 報) 麻痺・構音障害を伴う脳梗塞患者へのリハビリテーション, 日歯保存誌 47(秋季特別号), 190, 2004.(第 121 回日本歯科保存学会秋季学会, 長崎) (1)水病・保存科,(2)保存 II,(3)保存 III
4. 野呂明夫⁽¹⁾, 細川壮平, 高橋潤一⁽²⁾, 秋廣良昭, 槇石武美⁽¹⁾, 平井義人⁽³⁾ : 口腔リハビリ器具「パタカラ」を利用した口腔筋機能療法 (第 3 報) 脳梗塞患者・顔面神経麻痺患者への口腔リハビリテーション, 日歯保存誌 47(秋季特別号), 189, 2004.(第 121 回日本歯科保存学会秋季学会, 長崎) (1)水病・保存科,(2)保存 II,(3)保存 III

3. 補 綴 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|-------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 教 授 | 安達 康 | 骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A83-0530-1) |
| 助 教 授 | 堀田 宏巳 | 骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A83-0530-1) |
| 助 手 | 三宅菜穂子 | 補綴材料への口腔内細菌の吸着に関する実験的研究 (A91-0520-2) 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響 (HRC5A03) |
| | 野村 貴生 | 骨結合インプラントの基礎的臨床的研究 (A83-0530-1) |
| | 金井 由起 | 歯冠色修復材料の表面処理方法と接着性に関する研究 (A99-0520-1) |
| | 長谷川洋人 | 無口蓋義歯の適応基準 (A00-510-1) |
| | 井上 敬介 | 可撤性局部義歯の診断と診療計画 (A85-0530-1) |

2. 成果の概要

1) 唾液腺房細胞の活性化の機序におよぼすレーザーの影響 (HRC5A03)

本研究はヒドロキシアパタイト表面に対する唾液タンパクと口腔内細菌の吸着、ヒドロキシアパタイト表面へのレーザー照射による唾液タンパクと口腔内細菌の吸着阻止効果を明らかにすることを目的としている。これまでレーザー照射前後のゼータ電位の測定およびSEM, AFM について検討してきた。平成16年度はレーザー照射前後の接触角を測定した。レーザーにはGaAlAs 半導体ダイオードレーザーLD15 (波長: 810nm, Dentek Laser Systems Production 社製) を使用し、照射条件は6.1Watt 60sec, エネルギー密度 300 J/cm^2 とした。被験材料には焼結アパタイト (アパタイトペレットTM旭光学工業社製) を使用した。耐水研磨紙 (#180, #320, #600, #1200) で平面を仕上げ、アルミナ質研磨材 ($5 \mu\text{m}$, $0.05 \mu\text{m}$) を用いてバブ研磨を行いプレート状に調整した。アセトンによる15分間超音波洗浄後、アセトンに浸漬保存し、5分間自然乾燥し接触角を測定した。レーザー照射前後を比較するとレーザー照射前 (29.5 ± 4.9 , $n=37$) よりもレーザー照射後 (27.5 ± 4.08 , $n=14$) のほうが小さくなる傾向が認められた。

3. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育ワークショップ等

| 氏 名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役割 | 開催地 |
|-------|--------------|----------------------------------|-----|-----|
| 長谷川洋人 | 2004. 11. 25 | 東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ第1回アドバンスコース | 参加者 | 千葉市 |
| 安達 康 | 2004. 12. 9 | 東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ第2回アドバンスコース | 参加者 | 東京 |

| 氏名 | 年月日 | ワークショップ名 | 役割 | 開催地 |
|-------|-------------|----------------------------------|-----|-----|
| 堀田 宏巳 | 2004. 12. 9 | 東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ第2回アドバンスコース | 参加者 | 東京 |
| 金井 由起 | 2004. 12. 9 | 東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ第2回アドバンスコース | 参加者 | 東京 |
| 三宅菜穂子 | 2005. 1. 20 | 東京歯科大学カリキュラム研修ワークショップ第4回アドバンスコース | 参加者 | 千葉市 |

研修医 OSCE

| 氏名 | 年月日 | 種別 | 役割 | 開催地 |
|-------|-------------|---------------|--------|-----|
| 安達 康 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 運営委員 | 東京 |
| 堀田 宏巳 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |
| 三宅菜穂子 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | ST 責任者 | 東京 |
| 野村 貴生 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 予備評価者 | 東京 |
| 金井 由起 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |
| 長谷川洋人 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |
| 安達 康 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 運営委員 | 東京 |
| 堀田 宏巳 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | ST 責任者 | 東京 |
| 三宅菜穂子 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |
| 金井 由起 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 実行委員 | 東京 |
| 長谷川洋人 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |
| 井上 敬介 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 実行委員 | 東京 |

論 文

1. Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Miyake,N., Takahashi,K.⁽²⁾, Ohta,K.⁽³⁾, Hattori,M.⁽⁴⁾, Muramatsu,T.⁽⁵⁾, Satou,T.⁽⁶⁾, Oda,Y.⁽⁴⁾, Shimono,M.⁽⁵⁾, Ishikawa,T.⁽²⁾ : Transformation of hydroxyapatite surface characteristics during diode laser irradiation, Biomed Res **25**(2), 105 ~ 108, 2004. 原著 HRC5A03 細形研 (1)臨検査,(2)保存 III,(3)生化学,(4)理工,(5)病理,(6)補綴 II
2. Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Ohta,K.⁽²⁾, Takahashi,K.⁽³⁾, Miyake,N., Hattori,M.⁽⁴⁾, Muramatsu,T.⁽⁵⁾, Satou,T.⁽⁶⁾, Oda,Y.⁽⁴⁾, Shimono,M.⁽⁵⁾, Ishikawa,T.⁽³⁾ : Effect of a diode laser on cell proliferation, alkaline phosphatase activity, and osteopontin mRNA expression in proliferating and in differentiating osteoblastic cells, Biomed Res **25**(4), 165 ~ 170, 2004. 原著 HRC5A03 細形研,分子生研,細生研,生素研 実動施設 (1)臨検査,(2)生化学,(3)保存 III,(4)理工,(5)病理,(6)補綴 II

学会抄録

1. Ishikawa,T.⁽¹⁾, Shimono,M.⁽²⁾, Oda,Y.⁽³⁾, Satou,T.⁽⁴⁾, Muramatsu,T.⁽²⁾, Matsuzaka,K.⁽⁵⁾, Miyake,N., Hattori,M.⁽³⁾, Takahashi,K.⁽¹⁾, Ohta,K.⁽⁶⁾ : Influences of laser on the activity of salivary acinar cells, Bull Tokyo Coll **45**(2), 142 ~ 143, 2004.(Workshop 2003 Oral Health Science Center Tokyo Dental College, Chiba) HRC5A03 細形研,分子生研 (1)保存 III,(2)病理,(3)理工,(4)補綴 II,(5)臨検査,(6)生化学
2. 武藤功英⁽¹⁾, 山倉大紀⁽¹⁾, 安達 康, 岸 正孝⁽¹⁾ : 義歯用軟質裏装材の特性に関する研究 第 2 報 針入深さ試験, 日補綴歯会誌 **48**(111 回特別号), 82, 2004.(第 111 回日本補綴歯科学会学術大会, 東京) (1)補綴 III
3. Tomita,Y.⁽¹⁾, Miyake,N., Ishikawa,H.⁽²⁾ : Phospholipid Profile in Rat Salivary Glands., 95th AOCs Annual Meeting & Expo Abstracts, 97, 2004.(95th AOCs Annual Meeting & Expo, Cincinnati, Ohio, USA) A89-0120-1 生素研 実動施設 (1)生化学,(2)文教大・教育
4. 関根秀志⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾, 飯島俊一⁽¹⁾, 椎貝達夫⁽¹⁾, 武田孝之⁽¹⁾, 瀬田修一⁽²⁾, 廣瀬理子⁽³⁾, 鈴木道子⁽⁴⁾, 長谷川洋人, 浅田智宏, 野村貴生, 安達 康 : 東京歯科大学水道橋病院におけるインプラント治療の現状, 歯科学報 **104**(5), 507, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)水病・口腔インプラント科,(2)水病・口外科,(3)水病・保存科,(4)保存 II
5. 富田友美子⁽¹⁾, 三宅菜穂子, 石川博美⁽²⁾ : ラット唾液腺の脂質プロフィール, 第 43 回日本油化学会講演要旨集, 114, 2004.(第 43 回日本油化学会年会, 吹田市) A-89-0120-1 細形研,生素研 実動施設 (1)生化学,(2)文教大・教育
6. 西山留美子⁽¹⁾, 今村栄美子⁽¹⁾, 高橋千賀子⁽¹⁾, 池田浩子⁽¹⁾, 堀江伸行⁽¹⁾, 正木日立⁽¹⁾, 堀田宏巳, 山田素子⁽¹⁾, 山崎喜之⁽¹⁾, 佐藤雅志⁽¹⁾ : 診断に苦慮したパラコートによる口内炎の 1 例, 老年歯医 **19**(3), 196, 2004.(第 15 回日本老年歯科医学会大会, 鹿児島市) (1)東京都多摩老人医療センター・歯口外
7. 小田 豊⁽¹⁾, 下野正基⁽²⁾, 佐藤 亨⁽³⁾, 村松 敬⁽²⁾, 松坂賢一⁽⁴⁾, 三宅菜穂子, 服部雅之⁽¹⁾, 高橋 賢⁽⁵⁾, 太田一正⁽⁶⁾ : 唾液腺房細胞の活性化の機序に及ぼすレーザーの影響, 平成 16 年東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 17 ~ 18, 2005.(平成 16 年東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) 細形研,分子生研,細生研,生素研 実動施設 (1)理工,(2)病理,(3)補綴 II,(4)臨検査,(5)保存 III,(6)生化学

8. 本間慎也⁽¹⁾, 荒瀧友彦⁽¹⁾, 堀田宏巳, 嶋村一郎⁽¹⁾, 岸 正孝⁽¹⁾ : 骨結合インプラントにおける fixture の植立条件についての力学的考察, 日口腔インプラント会誌 **18**(2), 349 ~ 350, 2005.(日本口腔インプラント学会・第24回関東甲信越支部総会学術大会, 東京) (1)補綴 III

9. 井本裕之⁽¹⁾, 森下亜矢子⁽¹⁾, 荒瀧友彦⁽¹⁾, 堀田宏巳, 岸 正孝⁽¹⁾ : Installation 時と abutment 連結時との ISQ 値の変化について, 日口腔インプラント会誌 **18**(2), 352, 2005.(日本口腔インプラント学会・第24回関東甲信越支部総会学術大会, 東京) (1)補綴 III

4. 小 児 歯 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|------|-------|---------------------------------------|
| 講 師 | 大多和由美 | 外傷幼若永久歯における電氣的閾値の経時的変化 (A87-0450-4) |
| | 望月 清志 | 永久歯萌出遅延歯の処置法 |
| | 辻野啓一郎 | 乳歯形態異常, 歯数異常が永久歯列に及ぼす影響 |
| 病院助手 | 坪倉亜希子 | 乳歯, 幼若永久歯外傷の実態 |
| | 金子かおり | 障害児(者) 歯科治療の実態 |

2. 成果の概要

1) 歯科大学病院小児歯科における障害者診療の実態

都心の大学病院における障害者歯科診療の現状を把握する目的で、東京歯科大学水道橋病院小児歯科に2000年4月から2003年6月までに来院した障害者185名, 延べ来院患者1,213名を対象に、障害の種類, 年齢, 来院経緯, 処置内容および対応法に関する実態調査を行った。調査期間中の来院患者延べ総数に占める割合は6.0%であった。障害別にみると、言語・咀嚼機能障害が最も多く、40.5%で、次いで中枢神経・筋障害は28.1%、情緒障害13.0%であった。年齢別延べ患者の割合は、6~11歳が52.4%、0~5歳が20.6%、12~18歳が19.9%、19歳以上が7.1%であった。処置内容は、保存処置が最も多く50.8%で、次いで予防処置27.2%、外科処置14.9%、咬合誘導処置6.0%であった。障害別対応法は、中枢神経・筋障害では通常に歯科治療を行えた者が66.4%、抑制下が29.5%、全身麻酔下の治療が4.1%であった。情緒障害では、抑制下の治療が52.3%、通常治療が40.5%、全身麻酔下が7.1%、言語・咀嚼機能障害では、通常治療がほとんどであった。その他の障害では、通常治療が85.4%、抑制下が13.3%、全身麻酔下 が0.4%であった。

小児歯誌 42(3), 397~403, 2004.

3. 教育講演等教育に関する業績, 活動

研修医 OSCE

| 氏名 | 年月日 | 種別 | 役割 | 開催地 |
|-------|-------------|---------------|--------|-----|
| 大多和由美 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 実行委員長 | 東京 |
| 望月 清志 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |
| 坪倉亜希子 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 評価表集計係 | 東京 |
| 大多和由美 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 副実行委員長 | 東京 |

論 文

1. 辻野啓一郎, 金子かおり, 坪倉亜希子, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 乳歯早期喪失の原因について, 小児歯誌 42(3), 390 ~ 396, 2004. 原著 (1)小児歯
2. 金子かおり, 坪倉亜希子, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 東京都心に位置する歯科大学病院小児歯科における障害者診療の実態, 小児歯誌 42(3), 397 ~ 403, 2004. 臨床 (1)小児歯
3. 坪倉亜希子, 金子かおり, 辻野啓一郎, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 歯科大学小児歯科臨床における口腔外傷に関する実態調査, 小児歯誌 43(1), 65 ~ 71, 2005. 臨床 (1)小児歯

学会抄録

1. 辻野啓一郎, 金子かおり, 坪倉亜希子, 望月清志, 大多和由美, 薬師寺 仁⁽¹⁾ : 乳歯早期喪失の原因について, 小児歯誌 42(2), 375, 2004.(第 42 回日本小児歯科学会大会および総会, 福岡市) (1)小児歯
2. Mochizuki,K., Kurosu,M.⁽¹⁾, Yakushiji,M.⁽¹⁾, Tazaki,M.⁽²⁾, Shibukawa,Y.⁽²⁾, Abe,S.⁽³⁾, Yamakura,D.⁽⁴⁾, Sueishi,K.⁽⁵⁾, Sakamoto,T.⁽⁵⁾, Nakano,Y.⁽⁶⁾ : Magnetoencephalographic analysis of the somatosensory area, during the growth and development of the human cerebral cortex, relevant to the intraoral pressure receptor. , Bull Tokyo Dent Coll 45(2), 131 ~ 133, 2004.(Workshop 2003 Oral Health Science Center Tokyo Dental College, Chiba) (1)小児歯,(2)生理,(3)解剖,(4)補綴 III,(5)矯正,(6)口外 II
3. 竹井邦男⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 谷田部賢一⁽²⁾, 大多和由美 : Sotos 症候群の顎顔面成長について, 日矯正歯会 63 回抄集, 271, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)矯正,(2)水病・矯正科
4. 横瀬太志⁽¹⁾, 坂本輝雄⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 久保周平⁽²⁾, 辻野啓一郎, 谷田部賢一⁽³⁾, 山口秀晴⁽¹⁾ : 下顎前歯に過剰歯を認める 2 症例, 日矯正歯会 63 回抄集, 276, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)矯正,(2)小児歯,(3)水病・矯正科
5. 大多和由美, 武田友孝⁽¹⁾, 辻野啓一郎, 望月清志, 薬師寺 仁⁽²⁾, 中島一憲⁽¹⁾, 小川 透⁽¹⁾, 川村慎太郎⁽¹⁾, 島田 淳⁽³⁾, 石上恵一⁽¹⁾ : Sturge-Weber 症候群の小児に、改良型ラミネートタイプマウスガードを応用した 1 例, スポーツ歯誌 8(1), 93, 2005.(第 15 回日本スポーツ歯科医学会学術大会, 横浜市) (1)スポーツ歯,(2)小児歯,(3)水病・スポーツ歯科

5. 矯 正 歯 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 教 授 | 谷田部賢一 | 矯正術後の長期安定性について |
| 講 師 | 宮崎 晴代 | 歯の喪失原因を探る・特に咬合，唾液緩衝能と唾液量，口腔衛生習慣の影響について・(A90 0590 1) |
| 助 手 | 長谷部利一 林 正樹 | 変形性顎関節症と顎顔面形態及び不正咬合の関連について 矯正歯科臨床における予定外来院の実態調査 |
| 病院助手 | 安部 輝美 海老原 環 三代 真義 吉村 亮子 鈴木 祥子 横田 麗子 | |
| 診療補助医 | 小野 暁美 | |

2. 成果の概要

1) カウンターフォースアーチを用いた矯正治療前後における顎頭の位置変化と治療効果について

straight wire appliance 法に reverse curve of Spee が付与されたワイヤーを用いた際におこる治療効果について咬合器 Panadent 社製 condylar positioning indicator (C. P. I.), 及び側貌頭部エックス線規格写真を使用して検討した。矯正治療による顎頭の位置変化を C. P. I. を用いて調査した結果，顎頭の偏位量の減少を Lancer 社製 counter force (CF) を用いて矯正治療を行った CF 群，ステンレススチールワイヤー (SS) を用いて矯正治療を行った SS 群共に認めなかった。しかし，SS 群では顎頭偏位量の収束を認めた。矯正治療による骨格的变化を，側貌セファロを用いて調査した結果，CF 群における臼歯部の挺出量が大きくこのため下顎体部の下後方への回転を認めた。

歯科学報 101(11), 1025 ~ 1032, 2001.

2) 歯の喪失原因を探る・特に咬合，唾液緩衝能と唾液量，口腔衛生習慣の影響について

我々は咬合と歯牙喪失の関係に着目し 8020 達成者の咬合および顎顔面形態が正常に近い事，8020 達成者の咬合力が若年者と変わらないこと，QOL が高いことなどを報告した。今回はカリエスリスクテストと質問紙調査と口腔診査から 8020 達成者の唾液緩衝能と唾液量，口腔衛生習慣の影響について調査し，8020 達成者は唾液緩衝能が高いこと，歯磨き回数は平均的で半数以上が歯周病症状を有したが，歯列が整い口腔清掃がし易い事，喫煙率が低い事，定期検診率が比較的高い事が歯の維持につながる可能性が推察された。

歯科学報 105(2), 154 ~ 162, 2005.

3. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

| モデレーター | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|--------|-------------|----------------------------------|----------|-----|
| 宮崎 晴代 | 2004. 7. 11 | 市民公開講座 ご存じでしたか 8020達成は良い歯並びから | 日本臨床矯正医会 | 那覇市 |

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

研修医 OSCE

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|-------|-------------|---------------|--------|-----|
| 谷田部賢一 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 運営副委員長 | 東京 |
| 宮崎 晴代 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |
| 林 正樹 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 誘導係 | 東京 |
| 谷田部賢一 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 運営副委員長 | 東京 |
| 宮崎 晴代 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 記録係 | 東京 |
| 林 正樹 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |

論 文

1. Tsuchiya, Y.⁽¹⁾, Sueishi, K.⁽²⁾, Yatabe, K., Yamaguchi, H.⁽²⁾ : A case of Antley-Bixler syndrome with severe skeletal Class III malocclusion, Bull Tokyo Dent Coll **45**(2), 87 ~ 93, 2004. 原著 A-02-590-2 (1)東京都,(2)矯正
2. 安部輝美 : 口蓋前方部に加わる嚙下時舌圧と最大舌圧の測定 上顎前突症例と下顎前突症例について , 東京矯歯誌 **14**(1), 3 ~ 9, 2004. 原著
3. 三代真義 : 小児の口蓋前方部に加わる舌圧の測定 前歯部被蓋関係、舌癖の有無による相違について , 東京矯歯誌 **14**(2), 153 ~ 162, 2004. 原著
4. 宮崎晴代, 茂木悦子⁽¹⁾, 斉藤千秋⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 鈴木伸宏⁽²⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾ : 8020 達成者の歯科疾患罹患状況および生活と健康に関する調査結果について, 歯科学報 **104**(2), 140 ~ 145, 2004. 原著 (1)矯正, (2)千葉市歯科医師会
5. 竹内史江⁽¹⁾, 宮崎晴代, 野村真弓⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾, 平井基之⁽²⁾, 佐藤晃一⁽²⁾ : Dental PrescaleR を用いた 8020 達成者の咬合調査, 歯科学報 **105**(2), 154 ~ 162, 2005. 原著 (1)矯正,(2)東京都

単行図書

1. 中島龍夫⁽¹⁾, 宮崎晴代 : 著分担 :よくわかる子どものための形成外科 (a)口唇口蓋裂患者の矯正治療(一般的な矯正治療について) 160 ~ 164 頁, 永井書店, 大阪, 2005. 脳科学研 (1)慶大・医・形成外科

その他

1. 谷田部賢一 : Q&A 咬合圧分布を考慮した智歯の利用法, デンタルダイヤモンド **29**(16), 103 ~ 105, 2004.

学会抄録

1. 茂木悦子⁽¹⁾, 大峽 潤⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 宮崎晴代, 高根ユミ⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 石原和幸⁽²⁾, 奥田克爾⁽²⁾, 松田一郎⁽³⁾ : 8020 達成者の口腔内細菌について, 日プライマリ・ケア会誌 **27**, 185, 2004.(第 27 回日本プライマリ・ケア学会, 横浜) A-05-0591-4 (1)矯正,(2)微生物,(3)千葉県
2. 安部輝美, 吉村亮子, 三代真義, 小野暁美, 長谷部利一, 坂本輝雄⁽¹⁾, 宮崎晴代, 末石研二⁽¹⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾ : 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における過去 5 年間の口唇裂口蓋裂を有する矯正患者の統計的観察, 日口蓋裂会誌 **29**(2), 163, 2004.(第 28 回日本口蓋裂学会・学術集会, 鹿児島市) (1)矯正
3. 山中すみへ⁽¹⁾, 茂木悦子⁽²⁾, 野村真弓⁽²⁾, 野村登志夫⁽¹⁾, 鈴木啓介⁽¹⁾, 高柳篤史⁽¹⁾, 副島詩子⁽²⁾, 佐々木美央⁽²⁾, 竹内史江⁽²⁾, 鈴木祥子, 松久保 隆⁽¹⁾, 山口秀晴⁽²⁾ : 東歯大改訂版の超音波骨密度測定装置を用いた骨密度評価と保健指導, 歯科学報 **104**(3), 373, 2004.(第 277 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)衛生,(2)矯正
4. 中浜典子, 荒木みさ子, 槇石武美⁽¹⁾, 谷田部賢一 : 航空関連会社における歯科集団健診について(第 2 報) 3 年連続受診者, 歯科学報 **104**(3), 389, 2004.(第 277 回東京歯科大学学会例会, 千葉市) (1)水病・保存科

5. 宮原理子⁽¹⁾, 竹内史江⁽²⁾, 勝村 麗⁽²⁾, 菊地 悠⁽²⁾, 篠 珠美⁽²⁾, 井上恵実⁽²⁾, 大峽 潤⁽²⁾, 鈴木祥子, 高根ユミ⁽²⁾, 野村真弓⁽²⁾, 宮崎晴代, 茂木悦子⁽²⁾, 原崎守弘⁽²⁾, 山口秀晴⁽²⁾, 佐藤 亨⁽³⁾: オージオメーターによる 8020 達成者の聴力と咬合との関連について, 歯科学報 104(5), 520, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市)
(1)千葉県,(2)矯正,(3)補綴 II
6. 増淵牧子⁽¹⁾, 石井武展⁽¹⁾, 市村賢太郎⁽¹⁾, 金熙勅⁽¹⁾, 小坂竜也⁽¹⁾, 添島絵美⁽¹⁾, 鈴木祥子, 横田麗子, 北総博之⁽²⁾, 芳野亜希子⁽²⁾, 片山裕美⁽²⁾, 新妻史子⁽³⁾, 坂本輝雄⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 卒後研修課程第 27 期生による症例展示, 歯科学報 104(5), 543, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)矯正,(2)千葉県,(3)東京都
7. 添島絵美⁽¹⁾, 石井武展⁽¹⁾, 市村賢太郎⁽¹⁾, 小坂竜也⁽¹⁾, 金熙勅⁽¹⁾, 増淵牧子⁽¹⁾, 鈴木祥子, 山口秀晴⁽¹⁾, 坂本輝雄⁽¹⁾, 新妻史子⁽²⁾, 片山裕美⁽³⁾, 芳野亜希子⁽⁴⁾, 北総博之⁽⁴⁾, 横田麗子: 卒後研修課程第 27 期生による症例展示 リテンション(保定)ケース, 歯科学報 104(5), 544, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市)
(1)矯正,(2)東京都,(3)愛知県,(4)千葉県
8. Takeuchi,H.⁽¹⁾, Motegi,E.⁽¹⁾, Nomura,M.⁽¹⁾, Harazaki,M.⁽¹⁾, Yamaguchi,H.⁽¹⁾, Miyazaki,H., Kikuchi,Y.⁽¹⁾, Katsumura,R.⁽¹⁾, Shino,T.⁽¹⁾, Oohazama,J.⁽¹⁾: Occlusion and hearing levels in elderly with many present teeth, 52nd Annual Meeting Japanese Association for Dental Reserch Abstracts, 2004.(52nd Annual Meeting Japanese Association for Dental Reserch, Tokyo) (1)矯正
9. 市ノ川義美⁽¹⁾, 安藤 公美⁽¹⁾, 下尾嘉昭⁽¹⁾, 林 正樹, 末石研二⁽²⁾, 山口秀晴⁽²⁾: 口内法による両側下顎骨延長術と Le Fort I 型骨切り術を施行した第 1 第 2 鰓弓症候群(hemifacial microsomia)の 1 例, 日顎変形会誌 14(3), 220, 2004.(日本顎変形症学会, 福岡市) (1)帝京大・医・歯口外,(2)矯正
10. 吉村亮子, 宮崎晴代, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 松田一郎⁽²⁾: 8020 達成者に対する食生活のアンケート調査, 日プライマリ・ケア会誌 27, 38, 2004.(第 27 回日本プライマリ・ケア学会, 横浜市) (1)矯正, (2)千葉市
11. 茂木悦子⁽¹⁾, 宮崎晴代, 野村真弓⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 山崎美央⁽¹⁾, 高根ユミ⁽¹⁾, 菊地 悠⁽¹⁾, 井上恵実⁽¹⁾, 大峽 潤⁽¹⁾, 勝村 麗⁽¹⁾, 篠 珠美⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾: 長持ちする良い歯列、咬合徹底検証, 日歯医師会誌 57(4), 436, 2004.(第 20 回日本歯科医学会総会, 横浜市) A - 05 - 0591 - 4 脳科学研 (1)矯正
12. 勝村 麗⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 鈴木祥子, 菊地 悠⁽¹⁾, 篠 珠美⁽¹⁾, 井上恵実⁽¹⁾, 大峽 潤⁽¹⁾: 8020 達成者の頸椎の観察, 日矯正歯会 63 回抄集, 141, 2005.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) A-05-0591-4 (1)矯正
13. 吉村亮子, 安部輝美, 小野暁美, 三代真義, 海老原環, 鈴木祥子, 横田麗子, 林 正樹, 長谷部利一, 坂本輝雄⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 宮崎晴代, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾: 東京歯科大学水道橋病院矯正歯科における口唇口蓋裂患者の矯正学的観察, 日矯正歯会 63 回抄集, 227, 2004.(第 63 回 日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)矯正
14. 廣瀬史子⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 秋元善次⁽¹⁾, 山 満⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 谷田部賢一, 宮崎晴代, 長谷部利一, 吉村亮子, 海老原環: 当科におけるスケルタル・アンカレッジ・システムに関する臨床学的検討, 日矯正歯会 63 回抄集, 231, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)水病・口外科

15. 谷田部賢一：『パワーオクルージョン』(仮称)について 小臼歯 4 本抜歯後の智歯整直による 28 歯咬合の改善, 日矯正歯会 63 回抄集, 253, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市)
16. 竹内史江⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 原崎守弘⁽¹⁾, 谷田部賢一, 山口秀晴⁽¹⁾：動的矯正治療後 20 年経過した叢生症例の報告 矯正学講座卒後研修課程 30 周年記念行事の一環として, 日矯正歯会 63 回抄集, 264, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)矯正
17. 菊地 悠⁽¹⁾, 茂木悦子⁽¹⁾, 野村真弓⁽¹⁾, 竹内史江⁽¹⁾, 石井武展⁽¹⁾, 高根ユミ⁽¹⁾, 鈴木祥子, 勝村 麗⁽¹⁾, 篠 珠美⁽¹⁾, 井上恵実⁽¹⁾, 大峽 潤⁽¹⁾, 宮崎晴代, 原崎守弘⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 松田一郎⁽²⁾：8020 達成者に対する食生活のアンケート調査, 日矯正歯会 63 回抄集, 266, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) A-05-0591-4 (1)矯正, (2)千葉県
18. 竹井邦男⁽¹⁾, 末石研二⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾, 谷田部賢一, 大多和由美⁽²⁾：Sotos 症候群の顎顔面成長について, 日矯正歯会 63 回抄集, 271, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)矯正,(2)水病・小児歯科
19. 石井武展⁽¹⁾, 市村賢太郎⁽¹⁾, 小坂竜也⁽¹⁾, 金熙勅⁽¹⁾, 添島絵美⁽¹⁾, 増淵牧子⁽¹⁾, 鈴木祥子, 横田麗子,北總博之⁽²⁾, 片山裕美⁽³⁾, 新妻史子⁽⁴⁾, 芳野亜希子⁽⁵⁾, 坂本輝雄⁽¹⁾, 山口秀晴⁽¹⁾：卒後研修過程第 27 期生による症例展示-リテンションケース-, 日矯正歯会 63 回抄集, 285, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)矯正, (2)千葉市,(3)愛知県,(4)東京都,(5)千葉県
20. 谷田部香織⁽¹⁾, 谷田部賢一：『パワーオクルージョン』(仮称)を得た小臼歯 4 本抜歯・智歯整直 28 歯咬合の 1 症例, 日矯正歯会 63 回抄集, 287, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)千葉市

6. 口 腔 外 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|------|-------|--------------------------------|
| 教 授 | 柿澤 卓 | 非進展口腔癌に対する予後推測因子 (A98-0470-8) |
| 助 授 | 高野 正行 | 粘膜染色による口腔粘膜疾患の診断 (A98-0470-13) |
| 講 師 | 松井 隆 | 口腔外科領域における偶発症の検討 |
| 助 手 | 山 満 | 初期口腔癌の診断と治療 |
| | 高崎 義人 | 末梢神経の障害と再生に関する研究 |
| | 横山 葉子 | 症候群と顎嚢胞との関連 (A98-0470-11) |
| | 秋元 善次 | 顎変形症患者における咬合平面と頸椎との関連について |
| | 瀬田 修一 | 顎顔面外傷の原因による臨床的特徴 |
| 病院助手 | 高久勇一朗 | 歯科入院患者の感染症に関する統計 |
| | 今井 崇之 | 外来口腔外科処置の臨床統計 |
| | 岡村 大器 | 水道橋病院口腔外科における高齢者の臨床統計 |
| | 北浦 宏明 | 顎変形症患者の術前術後の心理変化の比較 |
| | 桑山 真寧 | 水道橋病院口腔外科における口腔良性腫瘍の臨床統計 |
| | 廣瀬 史子 | 口腔外科症手術予後の検討 |
| | 大山 定男 | 歯科治療における出血性素因患者の臨床的研究 |
| | 中田こずえ | 口腔粘膜疾患に関する研究 |
| | 藤田 佳子 | 顎変形症患者における下顎頭位に関する研究 |
| | 門田 崇 | 口腔外科疾患術後栄養管理に関する研究 |
| | 関根亜理紗 | 新しい骨接合素材の安定性について |
| | 永井 嘉洋 | 顎顔面領域の神経疾患に関する臨床的研究 |

2. 成果の概要

- 1) 下顎枝矢状分割法術後のオトガイ神経知覚検査に関する臨床的研究(第二報) 知覚障害程度の違いによる回復過程の差について

本研究の目的はSSRO後の知覚障害程度による回復過程の差を観察することである。

観察対象は、下顎枝矢状分割法を施行された症例で、術前、術後1, 4, 8, 12, 24週のすべての時期に、Semmes-Weinstein monofilamentsを用いた知覚検査が行われたものである。これらの内、術後1週において術前値より閾値上昇を示すもの215例(132症例)を、知覚障害と定義した。これらの知覚障害をBellの分類に従って5段階(レベル1~5)に分類した。統計学的検討は、レベル別の経時的変化と各検査時期別にレベル間の差について行なった。レベル別の回復過程は、すべてのレベルで有意差を認めなかったが、レベル4では術後24週において有意差を認めた($p < 0.01$, Wilcoxon)。各検査時期別のレベル間の差は、すべての検査時期において有意差が認められた($p < 0.001$, Kruskal Wallis)。これらの各レベル間の有意差の有無は、レベル1~3とレベル4、レベル1とレベル3の間に有意差が認められた($p < 0.01$, Mann-Whitney)。以上の結果より、レベルの違いにより回復時期や回復程度の差が認められる事

が確認された。これは、術直後の障害程度から予後予測が可能となる事を示唆している。

日顎変形会誌 14(2), 101~110, 2004.

3. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|------------------------------------|-------------|
| 高野 正行 | 唾液中カンジタマンナン抗原測定による口腔カンジタ関連疾患の診断法開発 | 科学研究費・基盤(C) |

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

| 講演者 | 年月日 | 演 題 | 学会名 | 開催地 |
|-------|-------------|------------------------------------|-------------------|-----|
| 柿澤 卓 | 2004. 4. 15 | 歯科におけるスタンダードプリコーション 標準レベルの院内感染予防対策 | 第三回水道橋病院口腔外科症例報告会 | 東京 |
| 松井 隆 | 2004. 4. 15 | 保険請求上の注意点 | 第三回水道橋病院口腔外科症例報告会 | 東京 |
| 高崎 義人 | 2004. 4. 15 | 下顎智歯抜歯後の神経麻痺 | 第三回水道橋病院口腔外科症例報告会 | 東京 |
| 瀬田 修一 | 2004. 4. 15 | インプラントを目的とした骨移植 | 第三回水道橋病院口腔外科症例報告会 | 東京 |

研修医 OSCE

| 氏 名 | 年月日 | 種 別 | 役 割 | 開催地 |
|-------|-------------|---------------|---------|-----|
| 柿澤 卓 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 運営副委員長 | 東京 |
| 山 満 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | ST1 評価者 | 東京 |
| 秋元 善次 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | ST1 評価者 | 東京 |
| 高崎 義人 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | ST3 評価者 | 東京 |
| 瀬田 修一 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | ST4 評価者 | 東京 |
| 柿澤 卓 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 運営副委員長 | 東京 |
| 高野 正行 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 予備評価者 | 東京 |
| 山 満 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | ST2 評価者 | 東京 |
| 高崎 義人 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | ST2 評価者 | 東京 |
| 横山 葉子 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 予備評価者 | 東京 |
| 秋元 善次 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | ST2 記録係 | 東京 |
| 瀬田 修一 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | ST1 評価者 | 東京 |

論 文

1. 高崎義人, 秋元善次, 柿澤 卓, 清水英孝⁽¹⁾, 南 克浩⁽¹⁾, 森 悦秀⁽¹⁾, 野口信宏⁽²⁾, 檀上 敦⁽²⁾, 後藤昌昭⁽²⁾, 浜瀬真紀⁽³⁾, 高木多加志⁽³⁾, 野間弘康⁽³⁾, 渡邊 裕⁽⁴⁾, 外木守雄⁽⁴⁾, 山根源之⁽⁴⁾: 下顎枝矢状分割法術後のオトガイ神経知覚検査に関する臨床的研究 第二報 知覚障害程度の違いによる回復過程の差について, 日顎変形会誌 14(2), 101 ~ 110, 2004. 原著 (1)阪大・口外, (2)佐賀大・歯口外, (3)口外 I, (4)市病・オーラルメディシン
2. Shima, K.⁽¹⁾, Hashimoto, S.⁽¹⁾, Muramatsu, T.⁽¹⁾, Takasaki, Y., Kakizawa, T., Inoue, T.⁽²⁾, Shimono, M.⁽¹⁾: Expression of Ki-67, Osteocalcin and Osteopontin in Cementoblastoma, Oral Med Pathol 9(3), 91 ~ 94, 2004. 原著 A79-0160-23 細形研 (1)病理, (2)臨検査
3. 小泉陽子, 瀬田修一, 秋元善次, 高野正行, 柿澤 卓, 榎谷保信⁽¹⁾: 頬粘膜に発生した腺扁平上皮癌の 1 例, 日口腔外会誌 51(1), 51 ~ 54, 2005. 原著 (1)病理
4. Sakamoto, K.⁽¹⁾, Matsuzaka, K.⁽¹⁾, Yama, M., Kakizawa, T., Inoue, T.⁽¹⁾: A case of leiomyosarcoma arising from the tongue, Oral Oncology EXTRA(41), 49 ~ 52, 2005. 症例 (1)臨検査

解 説

1. 高野正行: 【備えて安心 チェアーサイドの主訴対応マニュアル】 治まらない痛みへの対応 抜歯後に痛みが持続している, デンタルダイヤモンド 29(10), 52 ~ 55, 2004.
2. 高野正行: 【備えて安心 チェアーサイドの主訴対応マニュアル】 治まらない痛みへの対応 智歯周囲炎の痛みが治まらず抜歯できない, デンタルダイヤモンド 29(10), 56 ~ 59, 2004.

単行図書

1. 池田正一⁽¹⁾, 小森康雄⁽²⁾, 田上 正⁽³⁾, 山口 泰⁽⁴⁾, 高木律男⁽⁵⁾, 宮田 勝⁽⁶⁾, 柿澤 卓, 前田憲昭⁽⁷⁾, 連 利隆⁽⁸⁾, 玉城廣保⁽⁹⁾, 宇佐美雄司⁽¹⁰⁾, 樋口勝規⁽¹¹⁾, 草場恒樹⁽¹²⁾: 共訳 : 歯科臨床における院内感染予防ガイドライン, 厚生労働省エイズ対策研究事業, 横浜市, 2004. (1)神奈川県立こども医療センター・歯科, (2)東医大・口外, (3)国立国際医療センター・口外, (4)仙台医療センター・歯口外, (5)新潟大・歯・口外, (6)石川県立中央病院・口外, (7)大阪府, (8)大阪市立総合医療センター・口外, (9)名古屋医療センター・歯口外, (10)刈谷総合病院・歯口外, (11)国立病院九州医療センター・口外, (12)東京都

学会抄録

1. Yajima, Y.⁽¹⁾, Takeda, E.⁽¹⁾, Tazaki, M.⁽²⁾, Sakamoto, T.⁽³⁾, Tazaki, Y.⁽²⁾, Shibukawa, Y.⁽²⁾, Bessho, H.⁽¹⁾, Sekine, H.⁽⁴⁾, Abe, S.⁽⁵⁾, Inoue, T.⁽⁶⁾, Katakura, A.⁽¹⁾, Satou, T.⁽⁷⁾, Kakizawa, T., Ide, Y.⁽⁵⁾: The primary gustatory area in the human cerebral cortex examined by magnetoencephalography (MEG): Differences caused by gustatory qualities, stimulus densities, thermal stimulus in active location and variation of reaction time, Bull Tokyo Dent Coll 45(2), 114 ~ 116, 2004. (Workshop 2003 Oral Health Science Center Tokyo Dental College, Chiba) 脳科学研 (1)口外 I, (2)生理, (3)矯正, (4)水病・口腔インプラント科, (5)解剖, (6)臨検査, (7)補綴 II
2. 東郷聡司, 山 満, 柿澤 卓: 下唇の知覚麻痺からラクナ梗塞が判明した 1 例, 日口腔科会誌 50(5), 336, 2004. (第 176 回日本口腔外科学会関東地方会, 東京)

3. 秋元善次, 門田崇, 北浦宏明, 瀬田修一, 横山葉子, 高崎義人, 山 満, 松井 隆 : 顎変形症手術の侵襲と術後経過に関する検討, 第 58 回日本口腔科学会プログラム・抄録集, 2004.(第 58 回日本口腔科学会総会, 横浜市)
4. 高野正行 : 前癌状態と前癌病変 - 癌化の予測は可能か - 口腔前癌病変の癌化の予測に関する検討, 第 58 回日本口腔科学会プログラム・抄録集, 2004.(第 58 回日本口腔科学会総会, 横浜市)
5. 大鶴 洋⁽¹⁾, 田邊陽子⁽²⁾, 柿澤 卓, 斉藤美香⁽³⁾, 山口雅庸⁽³⁾ : 下顎智歯抜歯後の知覚麻痺感を初発症状とした多発性骨髄腫の 1 例, 日口腔腫瘍会誌 **16**(3), 139 ~ 140, 2004.(第 22 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 金沢市)
(1)東京医療センター・歯口外,(2)東京都,(3)東京都老人医療センター・歯口外
6. 藤田佳子, 山 満, 柿澤 卓, 星野 真⁽¹⁾, 嶋 香織⁽¹⁾, 井上 孝⁽²⁾ : 舌に発生した平滑筋肉腫の一例, 日口腔腫瘍会誌 **16**(3), 152, 2004.(第 22 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 金沢市) (1)病理,(2)臨検査
7. 桑山真寧, 東田亜樹子, 菊池徹行, 高野正行, 柿澤 卓, 松坂賢一⁽¹⁾, 井上 孝⁽¹⁾ : 上顎洞伸展型の嚢胞内に発生した扁平上皮癌の 1 例, 日口腔腫瘍会誌 **16**(3), 155, 2004.(第 22 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会, 金沢市)
(1)臨検査
8. 瀬田修一, 秋元善次, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 武田孝之⁽¹⁾, 飯島俊一⁽¹⁾, 椎貝達夫⁽¹⁾, 関根秀志⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾ : 上顎洞挙上術に関する検討 第 2 報 移植骨性状による経時的骨量変化について, 第 34 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会 抄録集, 144, 2004.(第 34 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 大阪市)
(1)水病・口腔インプラント科
9. 久保寺友子⁽¹⁾, 池田健太郎⁽²⁾, 井上吉登⁽³⁾, 高橋摩理⁽¹⁾, 山口敏雄⁽¹⁾, 柿澤 卓, 池田正一⁽¹⁾ : Ellis-van Creveld 症候群 3 例の歯科的所見, 障害者歯 **25**(3), 371, 2004.(第 21 回日本障害者歯科学会総会および学術大会, 枚方市) 脳科学研 (1)神奈川県こども医療センター・歯科,(2)東京都,(3)神歯大・小児歯
10. 関根秀志⁽¹⁾, 田口達夫⁽¹⁾, 飯島俊一⁽¹⁾, 椎貝達夫⁽¹⁾, 武田孝之⁽¹⁾, 瀬田修一, 廣瀬理子⁽²⁾, 鈴木道子⁽³⁾, 長谷川洋人⁽⁴⁾, 浅田智宏⁽⁵⁾, 野村貴生⁽⁵⁾, 安達 康⁽⁵⁾ : 東京歯科大学水道橋病院におけるインプラント治療の現状, 歯科学報 **104**(5), 507, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)水病・口腔インプラント科,(2)水病・保存科,(3)保存 II,(4)補綴 I,(5)水病・補綴科
11. 松木美和子⁽¹⁾, 橋本貞充⁽¹⁾, 嶋 香織⁽¹⁾, 佐々木穂高⁽¹⁾, 中野洋子⁽²⁾, 斉藤 力⁽³⁾, 柴原孝彦⁽⁴⁾, 畑田憲一⁽⁴⁾, 松井 隆, 井上 孝⁽⁵⁾, 下野正基⁽¹⁾ : 口腔領域にみられた Sinusoidal Hemangioma の 5 例, 歯科学報 **104**(5), 511, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) 細形研 (1)病理,(2)口外 II,(3)新潟大・組織再建口外,(4)口外 I,(5)臨検査
12. 門田崇, 廣瀬史子, 桑山真寧, 北浦宏明, 今井崇之, 瀬田修一, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 山 満, 高野正行, 松井 隆, 柿澤 卓 : 下顎枝矢状分割術施行患者における経管栄養と経口栄養との比較, 歯科学報 **104**(5), 512, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市)
13. 柿澤 卓, 松本宏之⁽¹⁾, 伊能智明⁽¹⁾, 鈴木基之⁽¹⁾, 貝塚雅信⁽¹⁾, 兵頭英昭⁽¹⁾, 森岡俊介⁽¹⁾ : 厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV 感染症の歯科医療に関する研究 平成 15 年度研究報告書 , 日本エイズ学会誌 **6**(4), 482, 2004.(第 18 回 日本エイズ学会学術集会・総会, 静岡市) (1)東京

14. 高崎義人, 秋元善次, 柿澤 卓, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 高木多加志⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 清水英孝⁽²⁾, 南 克浩⁽²⁾, 森 悦秀⁽²⁾, 野口信宏⁽³⁾, 壇上 敦⁽³⁾, 後藤昌昭⁽³⁾, 渡邊 裕⁽⁴⁾, 外木守雄⁽⁴⁾, 山根源之⁽⁴⁾ : 下顎枝矢状分割術後の神経知覚障害に関する統計学的解析 - 四施設間の障害程度の差 -, 日顎変形会誌 14(3), 260 ~ 261, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市) (1)口外 I, (2)阪大・口外 2, (3)佐賀大・歯科口腔外科, (4)市病・オーラルメディスン
15. 廣瀬史子, 高崎義人, 秋元善次, 山 満, 高野正行, 柿澤 卓, 谷田部賢一⁽¹⁾, 宮崎晴代⁽¹⁾, 長谷部利一⁽²⁾, 吉村亮子⁽¹⁾, 海老原環⁽¹⁾ : 当科におけるスケルタル・アンカレッジ・システムに関する臨床学的検討, 日矯正歯会 63 回抄集, 231, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)水病・矯正科, (2)矯正
16. 高野正行, 柿澤 卓, 高崎義人, 桑山真寧, 中田こずえ, 矢島安朝⁽¹⁾, 横尾恵子⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾ : 口腔前癌病変の診断と治療方針についての検討, 日口粘膜会誌 10(2), 63, 2004.(第 14 回日本口腔粘膜学会総会・学術大会, 東京) A96-0710-2 (1)口外 I
17. 中田こずえ, 桑山真寧, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 小池吉彦⁽¹⁾, 井上 孝⁽¹⁾ : 下顎骨に発生した Verruciform Xanthoma の 4 例, 日口粘膜会誌 10(2), 77, 2004.(第 14 回日本口腔粘膜学会総会・学術大会, 東京) A96-0710-2 脳科学研 (1)臨検査
18. 門田崇, 廣瀬史子, 桑山真寧, 北浦宏明, 今井崇之, 瀬田修一, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 山 満, 松井 隆, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎枝矢状分割術施行患者における経管栄養と経口栄養との比較, 日顎変形会誌 14(3), 225, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市)
19. 北浦宏明, 門田崇, 廣瀬史子, 桑山真寧, 今井崇之, 瀬田修一, 秋元善次, 横山葉子, 高崎義人, 山 満, 松井 隆, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎枝矢状分割法における出血・手術時間に関する検討, 日顎変形会誌 14(3), 247 ~ 248, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市)
20. 大山定男, 門田崇, 北浦宏明, 秋元善次, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 下顎枝矢状分割法症例における下顎管の下顎骨内位置関係に関する臨床的研究, 日顎変形会誌 14(3), 256 ~ 257, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市)
21. 廣瀬史子, 北浦宏明, 秋元善次, 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓 : 当科におけるスケルタル・アンカレッジ・システムに関する臨床学的検討, 日顎変形会誌 14(3), 258, 2004.(第 14 回日本顎変形症学会総会, 福岡市)
22. 高野正行, 柿澤 卓, 高崎義人, 秋元善次, 横山葉子, 瀬田修一 : 下顎枝矢状分割術における 2.0-mm ロッキングプレート[®]の臨床評価, 日口腔外会誌 50(13), 903 ~ 904, 2004.(第 6 回アジア顎顔面外科学会・第 49 回日本口腔外科学会総会, 千葉市)
23. 浜瀬真紀⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 高木多加志⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 高崎義人 : 下顎枝矢状分割術後の知覚障害に関する臨床的研究, 日口腔外会誌 50(13), 915, 2004.(第 6 回アジア顎顔面外科学会・第 49 回日本口腔外科学会総会, 千葉市) (1)口外 I
24. 山口晋一⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 高崎義人, 野間弘康⁽¹⁾ : 硬組織用超音波メスによる下歯槽神経損傷: 短時間接触による影響, 日口腔外会誌 50(13), 915, 2004.(第 6 回アジア顎顔面外科学会・第 49 回日本口腔外科学会総会, 千葉市) (1)口外 I

25. 山 満, 柿澤 卓, 高野正行, 松井 隆, 高崎義人, 横山葉子, 秋元善次, 瀬田修一 : 口腔領域の血管腫に対する凍結外科療法について, 日口腔外会誌 50(13), 920, 2004.(第 6 回アジア顎顔面外科学会・第 49 回日本口腔外科学会総会, 千葉市)
26. 秋元善次, 柿澤 卓, 高野正行, 北浦宏明 : 下顎枝矢状分割術における出血量と手術時間に関する研究, 日口腔外会誌 50(13), 927, 2004.(第 6 回アジア顎顔面外科学会・第 49 回日本口腔外科学会総会, 千葉市) 脳科学研
27. 高崎義人, 高野正行, 柿澤 卓, 清水英孝⁽¹⁾, 南 克浩⁽¹⁾, 森 悦秀⁽¹⁾, 野口信宏⁽²⁾, 壇上 敦⁽²⁾, 後藤昌昭⁽²⁾, 浜瀬真紀⁽³⁾, 高木多加志⁽³⁾, 野間弘康⁽³⁾, 渡邊 裕⁽⁴⁾, 外木守雄⁽⁴⁾, 山根源之⁽⁴⁾ : 下顎枝矢状分割法術後のオトガイ神経知覚障害, 日口腔外会誌 50(13), 927 ~ 928, 2004.(第 6 回 アジア口腔顎顔面外科学会・第 49 回 日本口腔外科学会総会, 千葉市) (1)阪大・口外 2,(2)佐賀大・歯科口腔外科,(3)口外 1,(4)市病・オーラルメディシン
28. 生野貴裕⁽¹⁾, 山本雅絵⁽¹⁾, 与謝野明⁽¹⁾, 椎木さやか⁽¹⁾, 浜瀬真紀⁽¹⁾, 高木多加志⁽¹⁾, 柴原孝彦⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 高崎義人 : 下顎枝矢状分割法術後の知覚障害の検討, 日口腔外会誌 50(13), 928, 2004.(第 6 回アジア顎顔面外科学会・第 49 回日本口腔外科学会総会, 千葉市) (1)口外 I
29. 高野正行, 柿澤 卓, 高崎義人, 桑山真寧, 北浦宏明, 藤田佳子 : 唾液を用いた ELISA 法による高感度カンジダマンナン検査の評価, 日口腔外会誌 50(13), 959, 2004.(第 6 回アジア顎顔面外科学会・第 49 回日本口腔外科学会総会, 千葉市) 脳科学研
30. 浜瀬真紀⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 高木多加志⁽¹⁾, 高崎義人 : 下顎枝矢状分割法術後の知覚障害に関する研究, 日矯正歯会 63 回抄集, 2004.(第 63 回日本矯正歯科学会大会, 福岡市) (1)口外 I
31. 横尾恵子⁽¹⁾, 野間弘康⁽¹⁾, 矢島安朝⁽¹⁾, 野村武史⁽¹⁾, 与謝野明⁽¹⁾, 高野正行 : ヨード不染部の解析, 第 14 回日本口腔粘膜学会プログラム・抄録集, 2004.(第 14 回日本口腔粘膜学会総会・学術集会, 東京) (1)口外 I

7. 歯 科 麻 酔 科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-----|-------|----------------------------------------------------|
| 講 師 | 福田 謙一 | 難治性の咀嚼筋痛発症メカニズムに関する研究(A-04-0500-10) |
| 助 手 | 笠原 正貴 | 口腔顔面痛に対する漢方薬の応用(A01-0500-12) |
| | 西條みのり | 周術期における呼吸器感染予防対策マニュアル作成のための起炎微生物の動態検索(A99-0500-2) |

2. 成果の概要

1) 難治性の咀嚼筋痛発症メカニズムに関する研究(A-04-0500-10)

咀嚼筋の痛みには、抗炎症薬、筋弛緩薬、咬合調整、スプリント治療、理学療法など多種多様な治療を施しても、除痛できない原因が不明の難治性の痛みがある。このような痛みには、慢性疼痛の発症メカニズムとして考えられる交感神経系の関与や神経の可塑性が起因しているか否かを調査した。多種多様な治療を施しても、除痛できない原因が不明の難治性の咀嚼筋痛を有した外来患者十名を対象とした。プラセボ、フェントラミン、リドカイン、ケタミン、アデノシン三リン酸などの薬物反応テストと星状神経節ブロックによる患者の痛みの変化を観察し、交感神経の遮断や末梢および中枢の知覚神経に影響を及ぼした際の痛みの変化を調査した。プラセボでは、投与前と投与後で痛みの程度（VAS: Visual Analogue Scale で評価）に有意な変化は認められなかった。星状神経節ブロックでは、施行前と施行後で 10 名中 8 名（80%）において、VAS 値が顕著に減少した。また、フェントラミン投与でも、投与前後で VAS 値が有意な差をもって減少し、10 名中 5 名（50%）が、顕著に VAS 値が減少した。リドカインでは、投与前と投与後で VAS 値に有意な変化は認められず、10 名中 2 名（20%）のみ VAS 値が減少した。ケタミン、アデノシン三リン酸では、投与前と投与後で VAS 値の減少が認められた者はいなかった。以上の結果から、難治性の咀嚼筋痛の発症には、交感神経系が深く関与していることが考えられたが、神経の可塑性に関しては、明確にならなかった。

2) 口腔顔面痛に対する漢方薬の応用(A01-0500-12)

本年度は、口腔顎顔面領域・慢性難治性疼痛性疾患における治療法の一手法を確立するため、中医学を修得・研究することを目的に中国・上海中医薬大学に留学した。

中医学とは日本でいう漢方医学のことである。最近、我が国においても漢方医学を中心とした東洋医学講座が設立され、臨床・教育・研究の場でその医学が活かされている。慢性疾患が蔓延している我が国にとっては、東洋医学講座の設立は自然な流れであると思われる。西洋医学は診断医学すなわち原因を追及する学問であるのに対し、東洋医学は患者の体質を改善し、抗病反応を賦活化させることに長じている。西洋医学の普及により最大の恩恵を受けたものが外科と救急である。しかし、複数の要因によって成り立つ慢性疾患に対しては不得手なところがある。反対に東洋医学は急性疾患には向かないが、副作用が少なく長期投与が可能で、慢性疾患に対して有効であることが多い。一人の患者を目前にしたときに、両医学の良いところを取り入れ、応用実践することが、患者の健康増進に貢献できると考えている。

平成 16 年度は、中医学の基礎を確認し、その臨床応用を修得した。また中医学の代表的な書、『傷寒雑病論』から痛みを考察した論文を書き、上海中医薬大学に提出した。機会を見て、発表する予定である。

3) 周術期における呼吸器感染予防対策マニュアル作成のための起炎微生物の動態検索 ((A99-0500-2))

気管挿管麻酔下で口腔・顔面手術予定の患者32例を口腔内洗浄群(n=16), 口腔内非洗浄群(n=16)に無作為に割り付け, PCR (polymerase chain reaction) 法および培養法によって病原微生物を検出した。口腔内洗浄群では術前に, 電動歯ブラシ装置により自動的にポピドンヨード液を供給しながら, 歯磨き, 歯周組織・頬粘膜・舌のスクラブを行った。また, 術後は1日2回, ポピドンヨード液によるすすぎ洗浄を行った。なお, 手術後, 32例全例にセファゾリン(3g/日)を5日間投与した。まず, 口腔内洗浄前32例のうち1例の標本から病原微生物を検出した。PCR法では肺炎球菌が87.5%, インフルエンザ菌が68.8%, 緑膿菌が53.3%, *Porphyromonas gingivalis*が40.6%で検出された。一方, 培養法では黄色ブドウ球菌が34.4%, MRSAが9.4%, 表皮ブドウ球菌が56.3%, MRSEが15.6%で検出された。

手術前後の病原微生物の変動を測定した結果, 口腔内洗浄群では, PCR法による検討で, 肺炎球菌, インフルエンザ菌の有意な減少が確認された。また, 培養法による検討では, 黄色ブドウ球菌および表皮ブドウ球菌の有意な減少が認められた。一方口腔内非洗浄群では, PCR法による検討で, 肺炎球菌, インフルエンザ菌の減少は認めず, また, 培養法では表皮ブドウ球菌の減少は認められたものの, 緑膿菌やカンジダの検出率はむしろ増加した。今回, 気管挿管麻酔例に対して, ポピドンヨード液を用いて機械的および化学的に口腔衛生処置を行ったところ, 呼吸器感染症の主要原因微生物が減少することが明らかになった。

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|-------|---------------------------------------------|------------------------|---------|------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 福田 謙一 | 静脈内投与及び経口投与でアデノシン三リン酸の鎮痛作用 | ハーバーUCLA メディカルセンター麻酔科 | アメリカ合衆国 | 福永敦翁 |
| 笠原 正貴 | 安全で効率のよい低流量麻酔に用いる新しい呼吸回路の研究 | ハーバーUCLA メディカルセンター麻酔科 | アメリカ合衆国 | 福永敦翁 |
| 福田 謙一 | 鎮痛関連物質受容体の遺伝子多型が下顎骨切り術後の疼痛治療に及ぼす影響に関する前向き研究 | 東京都精神医学総合研究所分子精神医学研究部門 | 東京 | 池田和隆 |
| 福田 謙一 | 帯状疱疹後神経痛の薬理的疼痛機序判定に関する研究 | 東京大学医科学研究所 | 東京 | 林田眞和 |

4. 科学研究費補助金・各種補助金

| 研究代表者 | 研究課題 | 研究費 |
|-------|-----------------------------|-------------|
| 笠原 正貴 | 安全で効率のよい低流量麻酔に用いる新しい呼吸回路の研究 | 科学研究費・若手(B) |

5. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会名 | 開催地 |
|-------|-------------|-----------------------|-------------------|-----|
| 福田 謙一 | 2004. 6. 13 | ペインクリニックにおけるアデノシン三リン酸 | 日本麻酔・薬理学会第26回学術大会 | 東京 |
| 福田 謙一 | 2004. 6. 13 | ニューロパチー性歯痛とその対応 | 第5回口腔顔面痛懇談会学術集会 | 新潟市 |

6. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------|------------|----------------------------|----------------------|-------|
| 福田 謙一 | 2004.10.1 | 1%プロポフォル注「マルイシ」の最近の知見 | 第32回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会 | 東京 |
| 福田 謙一 | 2004.10.7 | 口腔顔面痛の診断と治療 | 河口湖歯科医師会講演会 | 富士吉田市 |
| 福田 謙一 | 2004.11.9 | 歯科医院における治療が困難な痛みを訴える患者への対応 | 東京歯科大学同窓会城東支部講演会 | 東京 |
| 福田 謙一 | 2004.11.13 | 歯科医院における患者疼痛管理の実際 | 東京歯科大学同窓会愛媛県支部講演会 | 松山市 |
| 福田 謙一 | 2004.2.26 | 口腔顔面領域の診断困難な痛みを訴える患者への対応 | 東京歯科大学同窓会目黒区支部講演会 | 東京 |
| 福田 謙一 | 2004.3.20 | 口腔顔面痛みセンターとリラックス歯科治療外来 | 第13回茨城県歯科医学会 | 水戸市 |
| 福田 謙一 | 2004.3.23 | 歯科における障害者の全身管理・疼痛管理 | 千葉市歯科医師会講演会 | 千葉市 |

研修医 OSCE

| 氏名 | 年月日 | 種別 | 役割 | 開催地 |
|-------|-------------|---------------|-------------|-----|
| 福田 謙一 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 実行副委員長 | 東京 |
| 笠原 正貴 | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |
| 西條みのり | 2004. 5. 15 | 第7回水道橋病院 OSCE | 進行係責任者 | 東京 |
| 福田 謙一 | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | 実行委員長 | 東京 |
| 西條みのり | 2005. 3. 5 | 第8回水道橋病院 OSCE | ST 責任者, 評価者 | 東京 |

論 文

1. Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukuda,K., Arita,H.⁽²⁾, Sekiyama,H.⁽²⁾, Orii,R.⁽²⁾, Yajima,C.⁽²⁾, Hanaoka,K.⁽²⁾ : Clinical implication of the drug challenge test in intractable postherpetic neuralgia, *International Pain Clinic* **11**, 99 ~ 102, 2004. 原著
脳科学研 (1)東大・医科学研究所,(2)東大・医・麻酔
2. Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukunaga,A.⁽²⁾, Fukuda,K., Sakurai,S.⁽³⁾, Sekiyama,H.⁽⁴⁾, Arita,H.⁽⁴⁾, Hanaoka,K.⁽⁴⁾ : Dose intravenous infusion of Adenosine really exert an anti-nociceptive effect? , *International Pain Clinic* **11**, 475 ~ 478, 2004. 原著 (1)東大・医科学研究所,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻,(4)東大・医・麻酔
3. Fukuda,K., Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukunaga,A.⁽²⁾, Kasahara,M., Ichinohe,T.⁽³⁾, Kaneko,Y.⁽³⁾ : Analgesic effects of Intravenous infusion of adenosine 5-triphosphate(ATP) on orofacial pain, *International Pain Clinic* **11**, 479 ~ 482, 2004. 原著 (1)東大・医・麻酔,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻
4. 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 保坂譲治⁽¹⁾, 半田俊之⁽¹⁾, 杉山あや子⁽¹⁾, 福田謙一, 金子 譲⁽¹⁾ : プロポフォル麻酔下におけるベクロニウムの神経筋遮断効果への亜酸化窒素の影響, *日歯麻会誌* **32** (2), 193 ~ 197, 2004. 原著
(1)歯麻
5. 福田謙一 : 歯科治療行為による神経損傷後神経因性疼痛への対応, *Pharmacoaesthesiology* **16**, 23 ~ 26, 2004. 原著
6. Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukuda,K., Fukunaga,A.⁽²⁾, Meno,A.⁽³⁾, Satou,K.⁽³⁾, Tarui,K.⁽³⁾, Arita,H.⁽³⁾, Kaneko,Y.⁽⁴⁾, Hanaoka,K.⁽³⁾ : Analgesic effect of Intravenous ATP on postherpetic neuralgia in comparison with responses to ketamine and lidocaine, *J Anesth* **19**(1), 31 ~ 35, 2005. 原著 (1)東大・医科学研究所,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)東大・医・麻酔,(4)歯麻
7. 福田謙一 : ヘルペス、上顎洞炎による歯痛, *デンタルダイヤモンド* **30**, 50 ~ 53, 2005. 総説

単行図書

1. 金子 譲⁽¹⁾(g), 一戸達也⁽¹⁾(e), 間宮秀樹⁽¹⁾(a), 櫻井 学⁽¹⁾(d), 福田謙一(c), 小坂橋俊哉⁽²⁾(h), 縣 秀栄⁽³⁾(f),(i), 櫻井 誠⁽⁴⁾(b): 著分担 : モニタリングガイド (a)モニタリングの実際 1.バイタルサイン 2~15 頁,(b)モニタリングの実際 2.脈 16~25 頁,(c)モニタリングの実際 3.血圧 26~45 頁,(d)モニタリングの実際 4.心電図 46~65 頁,(e)モニタリングの実際 5.パルスオキシメータ 66~85 頁,(f)モニタリングの実際 6.機器なしでできるモニタリング 86~93 頁,(g)モニタリングの基礎知識 1.歯科医療の安全とモニタリング 94~103 頁,(h)モニタリングの基礎知識 2.何をモニタリングするのか 104~107 頁,(i)いろいろなモニタリング機器 機器の種類 128~141 頁, 医歯薬出版, 東京, 2004. CD-ROM 付 (1)歯麻,(2)市病・麻酔科,(3)国立病院機構栃木病院・歯口外,(4)千葉県

その他

1. 笠原正貴, 福田謙一, 西條みのり, 齋田菜緒子, 谷田部純子, 網川和美, 村松 淳, 高北義彦, 金子 譲⁽¹⁾ : 施設紹介: 東京歯科大学水道橋病院歯科麻酔科・口腔顔面痛みセンター, *ペインクリニック* **25**, 673 ~ 676, 2004. (1)歯麻

2. 福田謙一：歯科麻酔科併設専門外来紹介：リラックス治療外来と口腔顔面痛みセンター，水道橋畔発 1, 3, 2005.

学会抄録

1. 半田俊之⁽¹⁾，笠原正貴，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：経口クロナゼパムとリドカイン静脈内投与の併用によって除痛された口腔粘膜異常疼痛の一例，日臨麻会誌 24(8)，2-001，2004.(日本臨床麻酔学会第24回大会，大阪市) (1)歯麻
2. 齋田菜緒子，高北義彦，福田謙一，笠原正貴，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：フレキシブルタイプ Laryngeal maskairway(LMA)挿入時至適プロポフォールの検討，日歯麻会誌 32(4)，497，2004.(第32回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会，東京) (1)歯麻
3. 谷田部純子，笠原正貴，福田謙一，高北義彦，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：顎変形症手術の出血量に影響を及ぼす因子の検討，日歯麻会誌 32(4)，502，2004.(第32回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会，東京) (1)歯麻
4. 西條みのり，福田謙一，高北義彦，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：歯科外来精神鎮静法を想定したプロポフォール(ディプリバンTMとマルイシTM)による血管痛の検討，日歯麻会誌 32(4)，520，2004.(第32回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会，東京) (1)歯麻
5. 半田俊之⁽¹⁾，高北義彦，一戸達也⁽¹⁾，齋田菜緒子，谷田部純子，網川和美，笠原正貴，西條みのり，福田謙一，金子 譲⁽¹⁾：下顎枝矢状分割術におけるフルルビプロフェンアキセチルの先制鎮痛効果について，日歯麻会誌 32(4)，524，2004.(第32回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会，東京) (1)歯麻
6. 福田謙一，齋田菜緒子，谷田部純子，西條みのり，笠原正貴，高北義彦，一戸達也⁽¹⁾，杉山あや子⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：歯科麻酔業務の医療経済を考える，日歯麻会誌 32(4)，559，2004.(第32回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会，東京) (1)歯麻
7. 久保浩太郎⁽¹⁾，福永敦翁⁽¹⁾，櫻井 学⁽¹⁾，笠原正貴，高北義彦，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：新しい麻酔ガス節約システム - F-conomy Type1System - の検討，日歯麻会誌 32(4)，567，2004.(第32回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会，東京) (1)歯麻
8. 笠原正貴，高北義彦，福永敦翁⁽¹⁾，福田謙一，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：新しい麻酔ガス節約システム - F-conomy Type2System - の検討，日歯麻会誌 32(4)，568，2004.(第32回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会，東京) (1)歯麻
9. 間宮秀樹⁽¹⁾，松木由起子⁽¹⁾，松浦由美子⁽¹⁾，笠原正貴，縣 秀栄⁽²⁾，福田謙一，野村 仰⁽¹⁾，櫻井 学⁽¹⁾，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：静脈内鎮静法に用いるミダゾラムとプロポフォールの比較，日歯医師会誌 57(4)，330，2004.(第20回日本歯科医学会総会，横浜市) (1)歯麻，(2)国立病院機構栃木病院・歯口外
10. 福田謙一，笠原正貴，西條みのり，半田俊之⁽¹⁾，村松 淳，高北義彦，一戸達也⁽¹⁾，金子 譲⁽¹⁾：東京歯科大学水道橋病院歯科麻酔科・口腔顔面痛みセンターにおけるペインクリニックの現状，日歯医師会誌 57(4)，335，2004.(第20回日本歯科医学会総会，横浜市) (1)歯麻

11. 櫻井 学⁽¹⁾, 加納美穂子⁽¹⁾, 縣 秀栄⁽¹⁾, 福田謙一, 間宮秀樹⁽¹⁾, 野村 仰⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾, 廣岡理昭⁽²⁾, 神田秀二⁽²⁾ : 船橋市さざんか歯科診療所における在宅要介護高齢者の歯科治療時の全身管理, 日歯医師会誌 **57**(4), 336, 2004.(第 20 回日本歯科医学会総会, 横浜市) (1)歯麻,(2)船橋歯科医師会
12. 小川志保⁽¹⁾, 吉田恵子⁽¹⁾, 野村 仰⁽¹⁾, 久保浩太郎⁽¹⁾, 福田謙一, 松浦由美子⁽¹⁾, 間宮秀樹⁽¹⁾, 櫻井 学⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 硬膜外麻酔用カテーテルの皮弁採取部留置による持続的術後鎮痛管理, 歯科学報 **104**(5), 514, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)歯麻
13. 網川和美, 福田謙一, 笠原正貴, 西條みのり, 齋田菜緒子, 谷田部純子, 高北義彦, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 塩酸デクスメデトミジンの精神鎮静法における使用経験, 歯科学報 **104**(5), 516, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)歯麻
14. 林田眞和⁽¹⁾, 福田謙一, 関山裕詞⁽²⁾, 折井 亮⁽²⁾, 有田英子⁽²⁾, 金子 譲⁽³⁾, 花岡一雄⁽²⁾ : CRPS の治療 有効だった治療とその考察 帯状疱疹後神経痛における薬理学的疼痛機序判定試験ドラッグチャレンジテスト(DCT)の役割, 日ペインクリニック会誌 **11**(3), 111, 2004.(日本ペインクリニック学会第 38 回大会, 東京) (1)東大・医科学研究所・手術部,(2)東大・医・麻酔科・痛みセンター,(3)歯麻
15. 福田謙一, 笠原正貴, 西條みのり, 半田俊之⁽¹⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 歯科治療後知覚神経障害による医事紛争, 第 11 回日本麻酔・医事法制研究会プログラム/講演抄録集 **11**, 8, 2004.(第 11 回日本麻酔・医事法制研究会, 大阪) (1)歯麻
16. 福田謙一 : Pain Clinic における ATP, 日本麻酔・薬理学会誌 **16**(2), 16, 2004.(日本麻酔・薬理学会 第 26 回学術大会, 東京)
17. 半田俊之⁽¹⁾, 福田謙一, 林田眞和⁽²⁾, 福永敦翁⁽³⁾, 一戸達也⁽¹⁾, 金子 譲⁽¹⁾ : 術中アデノシン三リン酸持続静脈内投与は術後痛に有効である, 日本麻酔・薬理学会誌 **16**(2), 35, 2004. (日本麻酔・薬理学会第 26 回学術大会, 東京) 脳科学研 (1)歯麻,(2)東大・医科学研究所・手術部,(3)ハーバーUCLA メディカルセンター麻酔科
18. 福田謙一 : 1%プロポフォール注「マルイシ」の最近の知見, 日歯麻会誌 **32**, 443, 2004.(第 32 回日本歯科麻酔学会総会・学術講演会, 東京)
19. Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukuda,K., Arita,H.⁽²⁾, Kaneko,Y.⁽³⁾, Hanaoka,K.⁽²⁾ : What kind of drug is effective in alleviating intractable postherpetic neuralgia?, 11 th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians Program & Abstracts, 94, 2004.(11 th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians, Tokyo) (1)東大・医科学研究所, (2)東大・医・麻酔,(3)歯麻
20. Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukunaga,A.⁽²⁾, Fukuda,K., Sakurai,S.⁽³⁾, Arita,H.⁽⁴⁾, Hanaoka,K.⁽⁴⁾ : Analgesic and hemodynamic effects of Intravenous infusion of adenosine in a rabbit acute nociceptive pain model , 11 th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians Program & Abstracts, 158, 2004.(11 th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians, Tokyo) (1)東大・医科学研究所,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻,(4)東大・医・麻酔
21. Fukuda,K., Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukunaga,A.⁽²⁾, Kasahara,M., Ichinohe,T.⁽³⁾, Kaneko,Y.⁽³⁾ : Analgesic effects of Intravenous infusion of adenosine 5-triphosphate(ATP) on chronic intractable orofacial pain : an open-label study, 11 th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians Program & Abstracts, 160, 2004.(11 th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians, Tokyo) (1)東大・医科学研究所,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻

22. Fukuda,K., Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukunaga,A.⁽²⁾, Kasahara,M., Ichinohe,T.⁽³⁾, Kaneko,Y.⁽³⁾ : Analgesic effects of Intravenous infusion of adenosine 5-triphosphate(ATP) on neuropathic pain following pulpectomy and tooth extraction : a double blind placebo-controlled cross-over study, 11 th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians Program & Abstracts, 194, 2004.(11 th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians, Tokyo)
(1)東大・医科学研究所,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)歯麻
23. Hayashida,M.⁽¹⁾, Fukuda,K., Fukunaga,A.⁽²⁾, Meno,A.⁽³⁾, Arita,H.⁽³⁾, Kaneko,Y.⁽⁴⁾, Hanaoka,K.⁽³⁾ : Pain-relieving effects of Intravenous ATP infusion therapy on postherpetic neuralgia : an open-label study, 11th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians Program & Abstracts, 195, 2004. (11th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians, Tokyo) (1)東大・医科学研究所,(2)UCLA Harbor Medical Center,(3)東大・医・麻酔,(4)歯麻
24. Fukunaga,A., Kasahara,M., Koukita,Y., Fukuda,K., Kaneko,Y.⁽¹⁾ : A new anaesthetic gas saving system; The F-conomy type2system, 13th World Congress of Anaesthesiologist (CD-ROM), P0928, 2004.(13th World Congress of Anaesthesiologist , Paris, France) (1)歯麻

8. スポーツ歯科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 講師 島田 淳 顎関節症と全身状態との関連について (A00-0790-6)
病院助手 小島 一郎 ガム咀嚼が全身運動能力に及ぼす影響 (A00-0790-7)

2. 成果の概要

1) スポーツ選手の顎関節症と運動パフォーマンスについて

コンタクトスポーツ選手の中には強いクレンチングや顎顔面領域への過度の衝撃、あるいは不適合なマウスガードを装着することによるいわゆる「顎関節症」を発症する者が多く見られる。外傷性の顎関節症は骨折等が無ければ症状の消退も比較的早く軽症で済むが、近年急増しているのが不適合なマウスガード装着による顎関節症である。この場合選手自らが調整する市販のマウスガードを装着しているケースが殆どで、適合性が悪く顎の偏位が見られたりしっかり咬合できなかつたりするために発症するものと考えられ、選手自身はこの原因に気づかず、徐々に競技の成績を落として行くことも多い。このようなスポーツ選手に顎関節症の初期治療を行い、その後適切なマウスガードを調製することによってパフォーマンスを改善させることができ、治療前後の評価を重心動揺や ABR 等の様々な視点から評価することによって顎関節の状態や咬合状態とスポーツパフォーマンスがどのように関連しているのか評価している。

9. 口腔インプラント科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 講師 関根 秀志 骨結合インプラントの臨床術式
 歯牙への被圧状態に関わる中枢の活動 (HRC 3B08)
 東京歯科大学水道橋病院における歯科インプラント治療の実施状況の調査
- 助手 田口 達夫 骨結合インプラントの臨床術式

2. 成果の概要

- 1) 骨結合型インプラントの臨床術式
 上顎洞底挙上術をおこなった症例の経過報告と臨床術式に対する指針の提示
- 2) 歯牙への被圧状態に関わる中枢の活動 (HRC 3B08)
 歯周組織への浸潤麻酔により歯根膜受圧感覚情報を欠落させた状態における中枢の応答を計測し、報告した。
- 3) 東京歯科大学水道橋病院における歯科インプラント治療の実施状況の調査
 東京歯科大学水道橋病院において 2000 年 4 月から 2003 年 9 月までの期間におこなわれたインプラント治療の実施状況を調査し、短期的インプラント残存率を示した。
- 4) 骨結合インプラントの臨床術式
 インプラント埋入時の初期固定の度合いを共振周波数特性測定装置を用いて調査し、埋入後の治癒期間を短縮するための臨床指針を示した。

3. 学外共同研究

| 担当者 | 研究課題 | 学外研究施設 | | |
|-------|----------------------|---------------------|------------------|------------------------------|
| | | 研究施設 | 所在地 | 責任者 |
| 関根 秀志 | 歯科インプラント上部構造の力学特性の解明 | ワシントン大学歯学部 補綴学講座 | 米国ワシントン 州シアトル | Dr. Jeffrey E. Rubenstein |

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

研修医 OSCE

| 氏名 | 年月日 | 種別 | 役割 | 開催地 |
|-------|-------------|-----------------|--------|-----|
| 関根 秀志 | 2004. 5. 15 | 第 7 回水道橋病院 OSCE | 評価者 | 東京 |
| 田口 達夫 | 2004. 5. 15 | 第 7 回水道橋病院 OSCE | 記録係 | 東京 |
| 関根 秀志 | 2005. 3. 5 | 第 8 回水道橋病院 OSCE | 実行副委員長 | 東京 |
| 田口 達夫 | 2005. 3. 5 | 第 8 回水道橋病院 OSCE | 誘導係 | 東京 |

プロシーディングス

1. 井上 孝⁽¹⁾, 松坂賢一⁽¹⁾, 下野正基⁽¹⁾, 吉成正雄⁽²⁾, 山中すみへ⁽³⁾, 田崎雅和⁽⁴⁾, 石川達也⁽⁵⁾, 山田 了⁽⁶⁾, 久保周平⁽⁷⁾, 関根秀志, 茂木悦子⁽⁸⁾, 矢島安朝⁽⁹⁾, 新谷益朗⁽¹⁰⁾, 石崎 憲⁽¹¹⁾ : 唾液検査とオーダーメイド治療, 平成 16 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集, 27, 2005.(平成 16 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)病理,(2)理工,(3)衛生,(4)生理,(5)保存 III,(6)保存 II,(7)小児歯,(8)矯正,(9)口外 I,(10)脳科学研究施設,(11)補綴 I

学会抄録

1. Sekine,H. : The activities of the central nervous system concerned with the recognition of periodontal tactile sensation. -Recording of SEFs following periodontal tactile stimulation and identification of the ECD in the postcentral gyrus in human-, ISBET 2004 Program and Abstracts, 63, 2004.(15th Congress of the International Society for Brain Electromagnetic Topography, Urayasu) HRC3B08 脳科学研
2. Inoue,T.⁽¹⁾, Matsuzaka,K.⁽¹⁾, Shimono,M.⁽²⁾, Yoshinari,M.⁽³⁾, Yamanaka,S.⁽⁴⁾, Tazaki,M.⁽⁵⁾, Ishikawa,T.⁽⁶⁾, Yamada,S.⁽⁷⁾, Kubo,S.⁽⁸⁾, Sekine,H.⁽⁹⁾, Motegi,E.⁽¹⁰⁾, Yajima,Y.⁽¹¹⁾, Shintani,M.⁽¹²⁾, Ishizaki,K.⁽¹³⁾ : Saliva examination and order-made therapy, Bull Tokyo Dent Coll **45**(2), 150 ~ 151, 2004.(workshop in the oral health science center 2003, chiba) HRC5A03 細形研,生素研 (1)臨検査,(2)病理,(3)理工,(4)衛生,(5)生理,(6)保存 III,(7)保存 II,(8)小児歯,(9)補綴 III,(10)矯正,(11)口外 I,(12)脳科学研究施設,(13)補綴 I
3. 関根秀志, 田口達夫, 飯島俊一⁽¹⁾, 椎貝達夫⁽¹⁾, 武田孝之⁽¹⁾, 瀬田修一⁽²⁾, 浅田智宏⁽³⁾, 長谷川洋人⁽³⁾, 鈴木道子⁽⁴⁾, 野村貴生⁽⁵⁾, 安達 康⁽⁵⁾, 廣瀬理子⁽⁶⁾ : 東京歯科大学水道橋病院におけるインプラント治療の現状, 歯科学報 **104**(5), 507, 2004.(第 278 回東京歯科大学学会総会, 千葉市) (1)東歯大・水病・インプラント科,(2)水病・口外科,(3)補綴 I,(4)保存 II,(5)水病・補綴科,(6)水病・保存科
4. 瀬田修一⁽¹⁾, 秋元善次⁽¹⁾, 高崎義人⁽¹⁾, 高野正行⁽¹⁾, 柿澤 卓⁽¹⁾, 武田孝之, 飯島俊一, 椎貝達夫, 関根秀志, 田口達夫 : 上顎洞挙上術に関する検討 第 2 報 移植骨性状による経時的骨量変化について, 日口腔インプラント会第 34 回抄集, 144, 2004.(第 34 回日本口腔インプラント学会総会・学術大会, 大阪市) (1)水病・口外科
5. 椎貝達夫, 武田孝之, 吉本真人, 藤関雅嗣, 関根秀志, 田口達夫 : Immediate Loading と Early Loading に関する研究 - 埋入トルク値と ISQ 値(Osstell)の計測から -, 日補綴歯会誌 **48**(112), 69, 2004.(第 112 回日本補綴歯科学会学術大会, 横須賀市)

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

| | | |
|-----|----------|-----------------------------------------------------|
| 教 授 | ピッセン宮島弘子 | 固視像および瞳孔径観察可能なビデオ pupilometer の開発 (A01-0791-2) |
| 助 手 | 鈴木 高佳 | LASIK 後の iron line の発生率および共焦点生体顕微鏡像による発生部位 の検討 |
| | 本田 理恵 | 難治性ドライアイに対する確実な涙点閉鎖術 |
| | 中村 匡志 | |

2. 成果の概要

1) 固視像および瞳孔径観察可能なビデオ pupilometer の開発 (A01-0791-2)

白内障および屈折矯正手術における視機能に瞳孔径が重要であることが注目されている。従来の測定方法では実際に固視しているときの瞳孔径の測定および変化を観察することは不可能であった。今回、最も重要であるコントロールとして、正常人における瞳孔径の変化を、年齢、部屋の明るさ、固視している距離を変えて測定した。10歳から80歳まで、10歳ごとのグループに分け、平均値を比較した。その結果、年齢がすすむにつれ、瞳孔径は小さくなり、この傾向は遠方視、近方視とも同様であった。かなり以前に報告された年齢別瞳孔径と比較して、数値的には今回のものの方が小さいことが判明した。この結果から、現在ある眼内レンズデザイン、またはエキシマレーザーの照射パターンについて、改良が必要な可能性がある。さらに、白内障手術後の症例を年齢別に検査し、術後の変化があるかなどを検討する予定である。

2) LASIK 後の iron line の発生率および共焦点生体顕微鏡像による発生部位の検討

LASIK 後の iron line の出現率について、実際に LASIK を行った症例を retrospective に検討した。近視症例については -6D 以上の強度近視に対して行った LASIK 後に有意に発現率が高く、また遠視矯正例ではほぼ 100% の確率で出現していた。実際に、細隙灯顕微鏡で観察できる程度のわずかなもので、視力や他の視機能には問題がないが、角膜の生理的变化を知る上で、今後さらに検討すべきと考えた。Iron line が認められた症例に共焦点生体顕微鏡にて観察したところ、角膜上皮下に輝度の高い部分が観察された。また、角膜形状解析装置で、最もエキシマレーザー照射深度の多い部分と、iron line のある場所を解析したところ、ほぼ最大深度の部分に一致しており、角膜に最もストレスのかかった部分に変化が生じる発生機序があると思われる。現在海外学術雑誌への投稿の準備の最終段階にある。

3) 難治性ドライアイに対する確実な涙点閉鎖術

涙点プラグ及び従来のパクレンを使用した涙点閉鎖術にて完全な閉鎖が得られなかったドライアイに対して、新型パクレン (Alcon 社製 OPtemp) にて涙点閉鎖術を行った。術後フルオレセインスコア、矯正遠視視力及び涙液層破壊時間の著明な改善を認めた。またシルマースコア値も上昇し涙液量の増加を認め、全例で Jones テストが陰性であることより、鼻涙管への涙液が排出されていないことも確認できた。新型パクレンによる涙点閉鎖術は角膜所見と涙液の安定性が改善し視力も向上したことより、有効であると思われた。

3. 研究活動の特記すべき事項

オーガナイザー

| オーガナイザー | 年月日 | 講演演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|-------------------|--------------|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 常岡 寛 ビッセン宮島弘子 | 2004. 6. 25 | 低侵襲白内障手術 | 第19回日本眼内レンズ屈折矯正手術学会シンポジウム | 福岡市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2004. 6. 25 | wavefront-guided LASIK | 第19回日本眼内レンズ屈折矯正手術学会一般講演 | 福岡市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2004. 6. 26 | wavefront-guided LASIK | 第19回日本眼内レンズ屈折矯正手術学会ランチョンセミナー | 福岡市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2004. 9. 22 | Refractive Surgery | 22nd European Society of Cataract and Refractive Surgeons Free Paper session | Paris, France |
| ビッセン宮島弘子 前田 直之 | 2004. 11. 11 | 眼科手術その常識は本当か 角膜・屈折矯正手術部門 | 第58回日本臨床眼科学会 専門別研究会 Evidence Based Eye Surgery | 東京 |
| ビッセン宮島弘子 | 2004. 11. 11 | LASIK | 第58回日本臨床眼科学会 一般講演 | 東京 |
| ビッセン宮島弘子 | 2005. 1. 28 | 角膜・結膜(屈折矯正手術) | 第28回日本眼科手術学会 総会一般講演 | 大阪市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2005. 1. 28 | アクリソフシングルピースを語る～その今日から明日を照射する～ | 第28回日本眼科手術学会 総会ランチョンセミナー | 大阪市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2005. 1. 29 | Foldable IOL におけるエッジ効果と光学機能に及ぼす影響 | 第28回日本眼科手術学会 総会ランチョンセミナー | 大阪市 |

シンポジウム

| シンポジスト | 年月日 | 演 題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|----------|-------------|------------------------|----------------------------------------|-----|
| ビッセン宮島弘子 | 2004. 4. 16 | 屈折矯正を目的とした水晶体 / IOL 手術 | 第108回日本眼科学会総会 シンポジウム 「眼光学と白内障手術」 | 東京 |
| ビッセン宮島弘子 | 2005. 1. 30 | 屈折矯正手術 | 第28回日本眼科手術学会 シンポジウム | 大阪市 |

学会招待講演

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|----------|-------------|--------------------------------------------------------------|------------------------------|-----|
| ビッセン宮島弘子 | 2004. 4. 16 | 超音波乳化吸引術いわゆる バイマニュアルシステムを 検証する・フルファンクショ ンからの分離は有効か？ | 第108回日本眼科学会 総会ランチョンセミナー | 東京 |
| ビッセン宮島弘子 | 2004.11.11 | 白内障手術進化論・術式 / IOL / 粘弾性物質・この15年から 語る, 今の Best | 第58回日本臨床眼科学会 イブニングセミナー | 東京 |
| ビッセン宮島弘子 | 2004.12.11 | エキシマレーザーによる角膜 屈折矯正手術 | 第16回日本レーザー歯学会 総会・学術大会特別講演 | 千葉市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2005. 1. 28 | 海外最新情報にみる, 将来の すがた | 第28回日本眼科手術学会 ランチョンセミナー | 大阪市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2005. 1. 29 | 極小切開白内障手術 | 第28回日本眼科手術学会 アフタヌーンセミナー | 大阪市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2005. 1. 29 | OVD 全般の可能性の中での Healon V | 第28回日本眼科手術学会 イブニングセミナー | 大阪市 |

4. 教育講演等教育に関する業績, 活動

教育講演等

| 講演者 | 年月日 | 演題 | 学会・研究会名 | 開催地 |
|----------|-------------|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------|-------------------------|
| ビッセン宮島弘子 | 2004. 4. 3 | シングルピースアクリソフレンズ | 第3回大分県 Advanced Phaco Seminar | 大分市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2004. 4. 30 | Predictability in Refractive Surgery: Best Outcomes Analysis | AMO Academy | San Diego, U.S.A. |
| ビッセン宮島弘子 | 2004. 6. 16 | 白内障手術と屈折矯正手術に ついて | 第2回中野区歯科医師会 学術講演会 | 東京 |
| ビッセン宮島弘子 | 2004.10.14 | 白内障手術の新しい話題 | 東京歯科大学眼科 イブニングセミナー | 市川市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2004.11.25 | 歯科医の眼 | 埼玉県歯科医師会 女性歯科医会第1回講演会 | さいたま市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2005. 3. 5 | 最新眼内レンズと屈折矯正 | 第17回天理眼科臨床懇話会 | 奈良市 |
| ビッセン宮島弘子 | 2005. 3. 12 | LASIK と Phakic IOL の適応基準 | 眼科診療アップデート 2005 | 京都市 |
| 鈴木 高佳 | 2004.12.19 | トライイリスの使用経験 | 第1回トライイリス東海 セミナー | 浜松市 |

論 文

1. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子, 中村匡志, 菊地毅志 : マイトマイシン C を用いた PRK 後のエンハンスメント, 臨眼 **58**(4), 461 ~ 464, 2004. 原著
2. 本田理恵⁽¹⁾, ムラトドル⁽¹⁾, 藤島 浩⁽¹⁾, 戸田郁子⁽²⁾, 荒井宏幸⁽²⁾, 坪田一男⁽¹⁾ : 調節可能眼内レンズを用いた白内障手術の成績, 臨眼 **58**(4), 469 ~ 474, 2004. 原著 (1)市病・眼科,(2)東京都
3. 中村匡志, ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳, 菊地毅志 : Wavefront-guided LASIK における PreVue lens の有用性, 臨眼 **58**(5), 703 ~ 706, 2004. 原著
4. Bissen-Miyajima,H., Nakamura,K.⁽¹⁾, Kaido,M.⁽²⁾, Shimmura,S.⁽²⁾, Tsubota,K.⁽¹⁾ : Role of the endothelial pump in flap adhesion after laser in situ keratomileusis, J Cataract Refract Surg **30**(9), 1989 ~ 1992, 2004. 原著 (1)慶大・医・眼科,(2)市病・眼科
5. Bissen-Miyajima,H., Suzuki,S., Ohashi,Y., Minami,K.⁽¹⁾ : Experimental observation of intraocular pressure changes during microkeratome suctioning in LASIK, J Cataract Refract Surg **31**(3), 590 ~ 594, 2005. 原著 (1)参天製薬(株)

解 説

1. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子 : 眼内レンズの進歩 Multifocal IOL, あたらしい眼科 **21**(5), 591 ~ 596, 2004.
2. ビッセン宮島弘子 : 屈折矯正手術 ABC No.1 誰にでもできる適応判断, 3i 角膜診療 **1**, 8, 2004.
3. 本田理恵, ムラトドル⁽¹⁾ : 老視に対する調節可能眼内レンズ, 医のあゆみ **211**(10), 953 ~ 955, 2004. (1)市病・眼科
4. ビッセン宮島弘子 : LASIK の現状, あたらしい眼科 **22**(2), 139 ~ 142, 2005.
5. 本田理恵, ムラトドル⁽¹⁾ : ドライアイ治療 Overview, あたらしい眼科 **22**(3), 329 ~ 336, 2005. (1)慶大・医・眼科
6. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子 : 老視 LASIK の可能性, あたらしい眼科 **22**(3), 343 ~ 344, 2005.

その他

1. 中村匡志, ビッセン宮島弘子 : 新しい屈折矯正手術“Wavefront-guided LASIK”, 歯科学報 **104**(4), 411 ~ 413, 2004.
2. ビッセン宮島弘子 : LASIK の適応は?老眼も治りますか?, Journal of Integrated Medicine **15**(1), 49, 2005.

学会抄録

1. Bissen-Miyajima,H., Minami,K.⁽¹⁾, Nakamura,M.⁽¹⁾, Miyake-Kashima,M., Taira,Y.⁽²⁾ : Obserbation of corneal flap interface in existence of metal particles from microkeratome blade, The Association for Research in Vision and Ophthalmology Program Summary Book (CD-ROM), #193, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology , Fort Lauderdale, USA) (1)参天製薬(株),(2)埼玉県
2. Suzuki,T., Bissen-Miyajima,H., Nakamura,T., Kikuchi,T., Ohnuma,K.⁽¹⁾ : Outcomes of wavefront-guided LASIK depending on preoperative value of higher-order aberration, The Association for Research in Vision and Ophthalmology Program Summary Book (CD-ROM), #205, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology , Fort Lauderdale, USA) (1)千葉大・工・情報画像
3. Honda,R.⁽¹⁾, Murat,D.⁽¹⁾, Fujishima,H.⁽¹⁾, Toda,I.⁽²⁾, Arai,H.⁽³⁾, Tsubota,K.⁽¹⁾ : Time-wise alterations of apparent accomodation after phacoemulsification with implantation of the Akkomodative-1CU IOL, The Association for Research in Vision and Ophthalmology Program Summary Book (CD-ROM), #344, 2004.(The Association for Research in Vision and Ophthalmology , Fort Lauderdale, USA) (1)市病・眼科,(2)東京都,(3)神奈川県
4. Bissen-Miyajima,H., Suzuki,T., Nakamura,T., Kikuchi,T. : Wavefront-guided ablations for high myopia using VISX STAR S4, 17th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery Abstracts, 2, 2004. (17th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, San Diego, USA)
5. Bissen-Miyajima,H. : Quality of Cataract Surgery with the Infiniti System, 17th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery Abstracts, 58, 2004.(17th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, San Diego, USA)
6. Bissen-Miyajima,H. : What does the value of RMS mean to the patient?, 17th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery Abstracts, 146, 2004.(17th Symposium on American Society of Cataract and Refractive Surgery, San Diego, USA)
7. 中村匡志, ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳, 菊地毅志, 大沼一彦⁽¹⁾ : LASIK 術後視機能不良例に対する Wavefront-guided LASIK とその評価法, 第 19 回眼内レンズ屈折手術学会抄録集, 94, 2004.(第 19 回日本眼内レンズ屈折手術学会, 福岡市) 脳科学研 (1)千葉大・工・情報画像
8. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子, 中村匡志, 菊地毅志 : 波面収差解析装置による屈折値と自覚的屈折値の比較, 第 19 回眼内レンズ屈折手術学会抄録集, 132, 2004.(第 19 回日本眼内レンズ屈折手術学会, 福岡市)
9. Bissen-Miyajima,H., Nakamura,T., Suzuki,T., Ohnuma,K.⁽¹⁾ : Wavefront-guided LASIK for symptomatic eyes and its evaluation with original software, 22nd Congress of the European Society of Cataract and Refractive Surgeons Book of Abstracts, 13, 2004.(22nd European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Paris, France) (1)千葉大・工・情報画像
10. Suzuki,T., Bissen-Miyajima,H., Nakamura,T., Kikuchi,T., Ohnuma,K.⁽¹⁾ : Evaluation of postoperative visual function in high myopia, 22nd Congress of the European Society of Cataract and Refractive Surgeons Book of Abstracts, 94, 2004.(22nd European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Paris, France) (1)千葉大・工・情報画像

11. Bissen-Miyajima,H. : What does the value of RMS mean to the patient?, 22nd Congress of the European Society of Cataract and Refractive Surgeons Book of Abstracts, 241, 2004.(22nd European Society of Cataract and Refractive Surgeons, Paris, France)
12. 本田理恵⁽¹⁾, ムラトドル⁽¹⁾, 後藤英樹⁽²⁾, 田中まり⁽¹⁾, 高野洋之⁽¹⁾, 佐伯めぐみ⁽¹⁾, 戸田郁子⁽²⁾, 佐藤幸恵⁽²⁾, 坪田一男⁽³⁾ : 難治性ドライアイに対する確実な涙点閉鎖術, 第 58 回臨眼学会抄録集, 109, 2004.(第 58 回日本臨床眼科学会, 東京) (1)市病・眼科,(2)東京都,(3)慶大・医・眼科
13. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子, 中村匡志 : LASIK 後の角膜厚と regression, 第 58 回臨眼学会抄録集, 118, 2004.(第 58 回日本臨床眼科学会, 東京)
14. ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳, 中村匡志, 大沼一彦⁽¹⁾ : 強度近視眼への屈折矯正手術と視機能評価, 第 58 回臨眼学会抄録集, 156, 2004.(第 58 回日本臨床眼科学会, 東京) (1)千葉大・工・情報画像
15. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子, 大沼一彦⁽¹⁾ : LASIK 後の高次収差 RMS 値と実際の見え方, 第 58 回臨眼学会抄録集, 156, 2004.(第 58 回日本臨床眼科学会, 東京) (1)千葉大・工・情報画像
16. ビッセン宮島弘子, 鈴木高佳 : パイマニユアル水晶体超音波乳化吸引術における灌流量とリーク量, 眼科手術 **18**(臨増), 65, 2005.(第 28 回日本眼科手術学会, 大阪市)
17. 鈴木高佳, ビッセン宮島弘子, 大木伸一 : 強度近視眼への wavefront-guided LASIK と有水晶体眼内レンズ, 眼科手術 **18**(臨増), 75, 2005.(第 28 回日本眼科手術学会, 大阪市)
18. ビッセン宮島弘子 : 極小切開パイマニユアル水晶体超音波乳化吸引術のラーニングカーブ, 眼科手術 **18**(臨増), 141, 2005.(第 28 回日本眼科手術学会, 大阪市)